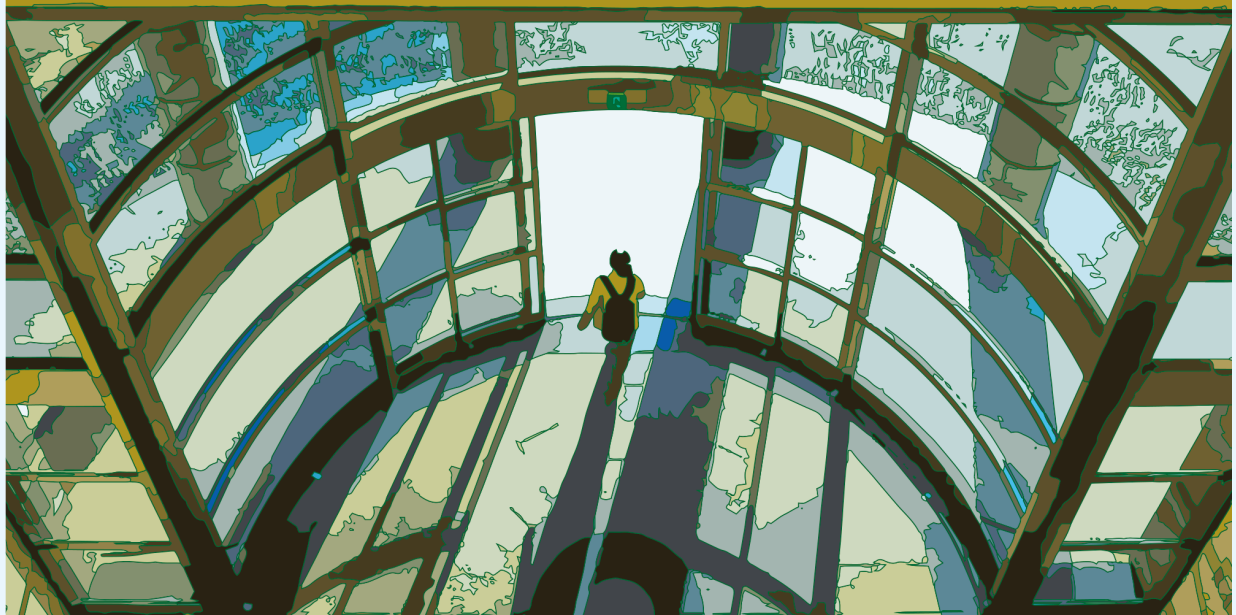


広報 TCU

2023
SUMMER
Vol.001



コロナ禍の3年間がもたらした新たな進化と 東京都市大学が意識的に取り組み続ける改革

コロナ禍で得た知見を教育改善に活かす

今年5月から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し、2020年から続いているコロナ禍も新たなフェーズに進みました。この3年間の出来事は本学にも大きな変化と進化をもたらしています。まず、学内でのオンラインツールの活用が一気に進みました。緊急事態宣言下での授業継続のために浸透したオンライン授業、授業録画やオンラインの学習管理システムが活用され、病気や怪我で一時的に登校が困難となった学生へのフォロー態勢が整いました。これまでなら横浜・世田谷間でキャンパスの移動が必要であった授業もオンラインで受講できるようになり、移動時間がなくなったことで学生は授業の選択肢が広がりました。ほかにも、コロナ禍の取り組みで得た知見を利用し、オンライン授業のメリットを活かした教育改善を進めています。

一方で、オンライン授業は知識を得るためだけであれば有効な手法ですが、やはり学生の成長には「リアルな場」であるキャンパスが必要だと考えています。そこで生まれる交流や会話が、学生たちの学びや気付きにつながることもまた、コロナ禍で強く感じました。

本学では現在、キャンパス再整備事業が進行しています。世田谷キャンパスの約3分の1をリニューアルするという長期の計画ですが、すでに7号館は2022年1月に竣工し、10号館も第二期工事に入っています。等々力キャンパスから移転した都市生活学部と人間科学部の学生は、昨年度から世田谷キャンパスで学ぶようになり、学内の雰囲気も変化したように思います。他学部の学生同士の交流が増えることで視野が広がり、人間としての幅も広がることでしょう。

時代に合った教育を続けるためにできることを

本学は今年4月に、「デザイン・データ科学部」を新設しました。初年度から多くの志願者を集め、注目度の高さを感じました。近年、データサイエンス系の学部を新設する大学は多くありますが、本学が重きを置いているのは、データの分析だけに留まらず、それを

社会で活かせるように「デザイン」する力を養うことです。さらにグローバルに活躍できるよう、教育課程に海外留学も取り入れています。これからの社会で求められる人材をどう育てていくか、ということはあらゆる大学が共通で持つテーマですが、その中でも本学が育てられるのはどんな人材なのか、我々のリソースを活用するとどういった教育ができるのかをしっかりと考えていきたいと思っています。

今年度も社会との関わりや人材育成の充実をめざした本学の取り組みは、文部科学省の「令和4年度私立大学等改革総合支援事業」^{*1}に全4タイプに選定されました。事業に申請した609校の内、4タイプ全てに選定された学校は本学を含む8校のみです。これに限らず本学は、毎年様々な文部科学省の事業^{*2}に採択されていますが、我々にとってこうした採択はひとつの指標でもあります。今の時代に求められる教育に十分に対応できているかを知る機会でもあるのです。

これから社会の変化のスピードは更に速まるでしょう。そのような中で、時代に合った教育を大学としてどう提供していけるのか。本学はこれからも考え続けていきます。



大上 浩

副学長（総括・教育担当）

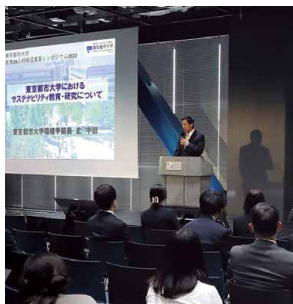
※1：詳しくは、
こちらのQRコードを ▶
ご確認ください。



※2：「令和2年度知識集約型社会を支える人材育成事業」
「令和3年度デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」
「令和4年度大学の世界展開力強化事業 ～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」

2022年11月17日

「産業DX人材育成事業シンポジウム2022」を開催しました



本シンポジウムは、令和3年度文部科学省大学改革推進等補助金(デジタル活用高度専門人材育成事業)「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択された「カーボンニュートラルを実現するための高度デジタル・環境・エネルギー人材育成プログラム」の一環として開催したもので、現在本学では、同プログラムのもと、ハード・システム・ソフトの三側面から脱炭素社会の構築を担う教育活動を推進しています。



2022年12月12日

「第18回神奈川産学チャレンジプログラム」にて、本学の3グループが優秀賞を受賞しました

「第18回神奈川産学チャレンジプログラム」にて、本学の3グループがそれぞれ優秀賞を受賞し、パシフィコ横浜の会議センターで表彰されました。「神奈川産学チャレンジプログラム」は、神奈川県内の大学と一般社団法人神奈川経済同友会に加盟する企業・団体との学生の人材育成を目的とした課題解決型研究コンペです。



2022年11月30日、12月3日

「リーダーズ研修会」を開催しました

2日間の研修では、本学公認の課外活動団体の次期学生責任者らが、課外活動を行う上で必要な手続きやリーダーとしての心構えについて学びました。



2022年12月21日

「第25回 YCチャリティーフェス」を開催しました

これまで本イベントでは、被災地の支援や地球環境の保護などを目的に、様々な活動を実施してきました。今回は、ウクライナ人道危機救援を目的とした支援を呼び掛けました。



2023年1月26日

インド工科大学ハイデラバード校と包括協定を締結しました



東京都市大学とインド工科大学ハイデラバード校が、本学世田谷キャンパスにて、学生・教員交流、共同研究等を目的とした包括協定(MoU)及び交換留学協定を締結しました。



2023年2月10日

文部科学省の「令和4年度 私立大学等改革総合支援事業」の全4タイプに、本学の取り組みが選定されました

今年度、文部科学省の「令和4年度私立大学等改革総合支援事業」に申請した609校の内、1タイプ以上に選定された学校は252校、4タイプ全てに選定された学校は本学を含む8校のみです。



2023年2月15日

「2022年度 東京都市大学 学生表彰授賞式」を開催しました

本学学生表彰は、大学院生および学部学生の学術活動または課外活動における顕著な成果に対し、団体または個人を表彰することを目的とし、1999年度より開催しています。



2023年3月8日

「第4回 東京都市大学ビジネスプランコンテスト」を開催しました



今年度は、応募対象を従来の本学の在学学生および若手研究者に加え、卒業後10年までの卒業生まで拡大し、書類審査を通過して最終選考に残った4チームが、卒業生有志のメンタリングによるブラッシュアップを経てコンテストに臨みました。



2023年3月8日※

※本学の関連ウェブサイトへの掲載日

ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムが、「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価で「S評価」を受けました

令和2年度に文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業(メニューI)」に採択された、本学の同プログラム事業の中間評価の結果が発表されました。「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」として、最高評価である「S評価」を受けました。



2023年3月16日

「大学の世界展開力強化事業 キックオフシンポジウム」を開催しました

同シンポジウムは、文部科学省の令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に選定された「アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム」の一環として開催したもので、大学関係者を中心とする方々にご参加いただきました。



2023年3月19日

「2022年度 学位授与式」を挙りました

世田谷キャンパスにて、学位授与式を挙行し、学部と大学院合わせて1,947名(学士1,606名、修士322名、博士19名)に学位記を授与しました。



2023年4月2日

「2023年度 入学式」を挙りました

世田谷キャンパスにて、入学式を挙行し、大学院340名、学部1,906名、合計2,246名の学生を新たに迎え入れました。



2023年4月2日

「学生工房」を開設しました

世田谷キャンパス6号館1階に「学生工房」を開設しました。同施設は、自由な創作活動を通じて、学生の主体的かつ創造的な学びを加速させることを目的とするものです。



2023年4月27日

「既存中型重量車の水素エンジン化事業性検証プロジェクト」にて目標エンジン性能の達成と水素エンジン搭載車両が完成しました

2021年8月より、本学と4社共同で実施している本プロジェクトにおいて、目標エンジン性能の達成と同エンジンを搭載した車両製作を完了し、走行試験を開始しました。



2023年4月7日

「令和5年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」を理工学部 藪井将太准教授が受賞しました

本表彰は、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術の水準の向上に寄与することを目的としており、その中で「若手科学者賞」は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象とするものです。



2023年5月4日、5日

「体育祭」を開催しました

体育祭は、学生が学部学科を超えて交流する貴重な機会です。今年度は延べ約900名の学生が「フットサル」など全10種目の競技に参加しました。



EVENT NEWS

研究成果の展示・発表をはじめ、コンサートやライブ、講演会などのプログラムが盛りだくさん。
秋の学園祭シーズンの到来です！

横浜祭テーマ「DYNAMIC」

魅力的な企画を用意しています！
今年の横浜祭は、ダイナミックに開催します！

FESTIVAL 2023

世田谷祭テーマ「百花繚乱」

花が咲き乱れるような華やかさのある世田谷祭を多くの方に感じてもらいたいという思いを込めて！

9月17日(日) 18日(祝)
第27回
横浜祭



11月4日(土) 5日(日)
第94回
世田谷祭

OPEN CAMPUS

フェスティバルステージ

入試相談コーナー&資料配布コーナーを設置

最新情報は
こちらをご覧ください



最新情報は
こちらをご覧ください



第26回

12月20日(水) YC チャリティーフェス

《開催時間》16:00~19:30 《場所》横浜キャンパス4号館

主催：東京都市大学 学生団体連合会 横浜分室 後援：東京都市大学 後援会・同学生部

企画内容

- ◆ 音楽企画
- ◆ キャンパスイルミネーション
- ◆ チャリティー募金



二子玉川夢キャンパスは、二子玉川ライズに開設している本学のサテライトキャンパスです。本学の学生がワークショップやイベントなどを通して、それぞれの夢を探し、新しい夢に出会う。そんな場所を目指しています。



一緒に活動しませんか？ 68名が所属しています。

※2023年4月15日時点



学部の枠を超えて、「夢キャンコミュニケーター」が活躍しています！

本学の学生団体「夢キャンコミュニケーター」は、「夢キャンパス」を拠点に自由な発想でイベントやプロジェクトの企画・運営をしています。地域の方や子どもたちをはじめ、行政や企業、NPO法人、他大学などと連携しながら、本学を盛り上げていく存在として活躍しています。

醸成されるスキルと能力

1

プロジェクトの基礎を学ぶ

グループワークを円滑に進めていくためのコミュニケーション能力や課題発見・解決のためのプロセスを学び、総合力・応用力を身に付けていきます。

2

リーダーシップを学ぶ

目標に向かって課題に積極的に取り組み、自らのポジショニングを確立し、リーダーシップを発揮できる資質・能力・力量・統率力を身に付けていきます。

3

社会の課題を見出す力を学ぶ

プロジェクトを通じて、成し遂げる力を醸成し、社会で役立つ知識とスキルを身に付けることは、社会に出た際に「課題を見出す力」へと転換されます。

詳しくは、こちらのQRコードをご確認ください。



Yume Campus Activity Report

詳しくは、各QRコードをご確認ください。

1 2R NOW in 世田谷「子どもエコ・マーケットでお買い物体験」を開催

▶ 2022年12月3日(土)

世田谷区2R推進会議と環境学部伊坪研究室主催による、2R(リデュース・リユース)※活動の普及促進を目的としたイベントが開催され、親子27組が参加しました。



※Reduce(リデュース)はごみの発生抑制、Reuse(リユース)は再使用を表します。

2 夢キャンコミュニケーターが「クリスマスイベント」を開催

▶ 2022年12月10日(土)

夢キャンコミュニケーターが小学生を対象に、スノードームとクリスマスツリーを作る企画を行いました。合わせて15組の親子が参加し、ものづくりの楽しさを体験しました。



3 児童文化研究会「ぼっけ」が「冬のおはなし会&工作会」を開催

▶ 2023年1月22日(日)

人間科学部の児童文化研究会「ぼっけ」※が絵本の読み聞かせと工作会を主催し、18組の親子が参加しました。

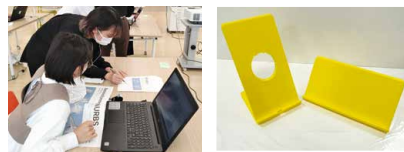
※「ぼっけ」は本学の学生団体で、幼稚園や保育園、企業にて手遊びや絵本の読み聞かせ、パペットを使った劇などのボランティアに取り組んでいます。



4 身のまわりの“モノ”のデザインを学ぶ「デザイン入門 はじめの一歩」を開催

▶ 2023年3月12日(日)

夢キャンコミュニケーターが中高生を対象に、デザインを学ぶイベントを開催しました。参加者は「スマホスタンド」の設計を通して、デザイン工程を体験し、モデリングツールの使い方や考え方を学びました。



5 「第1回 夢フェス! 開花～みんなの手を取り、夢を咲かそう～」を開催

▶ 2023年3月25日(土)、26日(日)

コロナ禍で開催できずにいた「夢祭」を3年ぶりに「夢フェス」として実施しました。夢キャンコミュニケーターを中心に本学学生が結集・企画し、2日間で約600名が参加しました。



6 「第2回 都市大フェスタ」を開催

▶ 2023年5月28日(日)

学科研究会連合が地域の子どもたちを対象にした「都市大フェスタ」を開催しました。学生たちの日々の学びを活かした企画ブースを出展し、約200名が参加しました。



グループ学習、自学自習にも便利！

本学の学生なら、お気軽にご利用できます！

【開館時間】

○月曜日～金曜日 10:00～19:00 ○8月10日～8月20日、12月26日～1月6日
○土曜日・日曜日・祝日 10:00～16:00 (年度により異なる)

【休館日】

【所在地】東京都世田谷区玉川二丁目21番1号 二子玉川ライズ・オフィス 8階

詳しくは、こちらのQRコードをご確認ください。



利用目的に合わせてレイアウトは自由自在！



くつろげるスペースもあります

Q & A

ご家族の方から多く寄せられるご質問にお答えします

A に  がある場合、詳しくは、QRコードをご確認ください。

Q 学業や学生生活について相談したい場合、
どうすればいいのでしょうか。

A 全学年にクラス担任教員を置いており、普段から気軽にアドバイスを受けることができます。学部・学科によって、3年、4年次は「事例研究」、「卒業研究」の指導教員が担当します。保証人の方々に対しても同様に対応いたします。ご希望の際は、直接クラス担任または学生支援センターへご連絡ください。

※2023年5月1日時点

Q 奨学金の利用方法について教えてください。

A 毎年4月上旬に、募集説明会や手続き書類などの配布を行います。奨学金の趣旨をよく理解したうえで、積極的に応募してください。奨学金制度に関する相談は、各キャンパスの学生支援センターで行っています。

※2023年5月1日時点

Q 高等教育の修学支援新制度を申請・利用
できますか。

A 年2回(4月、9月)、申請の機会があります。家族構成や生計維持者が扶養している家族の人数、世帯年収等により採否が決まります。不採用となった場合でも、上述に変更が生じた場合は再度申請することができます。

※2023年5月1日時点

Q 在学生が利用できる「100円朝食」について
教えてください。

A 各キャンパスの学生食堂にて、8:30~10:00の間で実施しています。学生のみなさんの脳の活性化や健康面のサポートを図るため、後援会の支援を受け、栄養バランスの良い食事を提供しています。

※平日の授業実施日のみ、売り切れ次第終了。 ※2023年5月1日時点

Q 学生生活で生じる色々な悩みを
相談するには、どうすればいいのでしょうか。

A 学生相談室を各キャンパスに設置しています。相談室では、カウンセラー(相談員)が学生の悩みを親身になって聞き、最も適した方法を見出したうえで、自ら解決できるように助言をしています。事前予約制で、学生相談室のウェブサイトより予約が可能です。また、学生のご家族の皆さまのご相談にも応じています。

※2023年5月1日時点

Q 保証人が授業の出席状況を確認することは
できますか。

A 学部1、2年生の保証人の皆様を対象に、学生の授業出席状況を公開する「保証人用出席確認システム」を運用しています。全ての授業で出欠をとるわけではありませんので「学生の出席状況の傾向」を把握いただくシステムであることをご了承ください。また、利用のためのID、パスワードは、毎年5月初旬にDMハガキを保証人住所宛てに郵送しています。

Q 休学の制度について教えてください。

A 海外留学や怪我・病気などにより、長期にわたって修学が出来ない場合は休学を願い出ることができます。休学期間中の授業料は免除されますが、その期間に応じた在籍料の納入が必要になります。休学には、クラス担任または指導教員への事前相談や休学願の提出といった手続きが必要となりますので、休学をお考えの場合は、早めに所属キャンパスの学生支援センターへご相談ください。

※2023年4月1日時点

Q 高校生活とのギャップ(情報収集など)には、
どのように対応すればいいのでしょうか。

A 大学では、高校のように毎日のホームルームやその中での情報伝達はありません。在学生専用のポータルサイトや授業支援システムなど、目的や用途に応じて、複数の情報伝達手段を活用する形となります。使用方法がわからない場合や情報を見つけれない場合は、在学生ご本人からクラス担任教員や事務局へご相談・お問い合わせください。

※2023年4月1日時点

【参考】「東京都市大学 キャンパスライフ」では、
学生生活に関わる様々な情報を紹介しています。

Q 保険制度について教えてください。

A

在学生全員が入学時から「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。また、任意加入保険として、「学研災付帯賠償責任保険」、「学研災付帯学生生活総合保険」、「スポーツ安全保障」、「学生あんしんパスポート」なども案内しています。

※2023年4月1日時点



Q 授業料の納入期限について教えてください。

A

以下の通りです。

- 4月30日[一括納入/分割納入 前学期分]
- 10月20日[分割納入 後学期分]

※土日祝日にあたる場合は、その前日までにお振込みください。

※2023年4月1日時点



Q 授業料をクレジットカードで支払うことは可能ですか。

A

NTTスマートレード(株)が提供する「学費公共スマート払い」を利用することにより、可能です。

※2023年4月1日時点



Q 授業料納入に関するお知らせはいつごろ届きますか。

A

以下の通りです。

【新入生】 前学期分は、入学手続き時に納入済のため、分割納入された方のみ後学期分の振込依頼書(納付書)を前学期終了時(8月頃)に発送いたします。

【在学生】 4月初旬に[前学期分]と[後学期分]をまとめて発送いたします。

※2023年4月1日時点



Q 東京都大学オーストラリアプログラム(TAP)に参加することで、就職活動に不利が生じないか心配です。

A

留学時期が低学年次であるため、TAPに参加することで、就職活動が不利になることはないと考えています。

留学後はTAPで経験したことを活かして、その後の学業により高いモチベーションで臨むことができれば、満足のいく就職活動を送れることでしょう。

Q 学部生と大学院生の就職活動の違いについて教えてください。

A

就職活動そのものに、大きな違いはありません。ただし、研究活動の実績がある大学院生には、面接等でより研究活動にフォーカスした質問をされる可能性があります。

また、就職実績としては、学生個人によるところが大きいものの、理工系を中心に大学院生の方が有名400社への内定率が高くなっています。

Q 就職活動において、インターンシップへの参加は不可欠ですか。

A

不可欠ではありませんが、本学では参加を勧めています。インターンシップへの参加により、社会から求められるスキルなどに気づき、学びへのモチベーションが高まることも期待できます。また、近年はインターンシップの参加から実際の内定につながるケースも増えています。

Q 成績通知書の発送時期・届け先について教えてください。

A

前期末は8月下旬、学年末は3月下旬(年2回)に、成績が確定し次第、保証人の住所宛に郵送しています。

※2023年5月31日時点



Q 大学院への進学を検討するにあたり、早い段階から進学・就職に関する説明会を実施していますか。

A

オリエンテーション期間を中心に、学部生を対象とした大学院進学説明会を実施しています。志望する指導教員の候補が絞れている場合は、直接、相談していただくことも可能です。また、キャリアガイダンスとして、低学年次から自身のキャリアや働くことについて考えるきっかけを与える機会を提供しています。3年次には、進路ガイダンス等で進学や就職についての情報提供も行っています。

※2023年5月31日時点



キャリア支援センターのご紹介

一人ひとりにきめ細かな「就職・キャリア支援」で「社会で活躍できる力」を高める!

基礎力+専門力



職業的態度



就職活動力

本学では、学生一人ひとりの個性を活かした、理想のキャリアを実現できるよう、様々な形で「就職・キャリア支援」を行っています。就職に必要な基礎知識やノウハウの修得をはじめ、多彩な就職支援プログラムを展開し、「社会で活躍できる力」の向上に取り組んでいます。

入学時から「基礎力」を高めるカリキュラムと支援を行い、「専門力」は研究に取り組むことで磨きます。また、様々な学生生活を通して「職業的態度」の向上を目指し、「就職活動力」は就職指導の専門家が設計した支援プログラムによって高めることで「就職に強い都市大」を実現しています。その成果は、全国平均に比べ、優位な就職実績を収めるとともに、文部科学省の学生キャリア支援に対する補助事業にも採択され、最高評価の「S評価」を獲得しています。

理想の就職を実現するためのプログラムを展開しています

学内で行われる就職支援イベントは100回以上。東急グループ各社でのインターンシップや文部科学大臣賞を受賞した海外インターンシップは、社会を知ったり、自分を試す良い機会となっています。その他、学生一人ひとりが1年ごとの学修・課外活動などを通して身につけた成果の自己分析と目標設定を行う「プレ・ディプロマ・サプリメント」を導入するなど、充実した就職・キャリア支援体制を構築しています。

- ▶ 学修習得度を客観的に把握できる「プレ・ディプロマ・サプリメント」/「ディプロマ・サプリメント」
- ▶ インターンシップ ▶ 一人ひとりの状況に応じた独自の個別対策 ▶ 学校推薦制度
- ▶ 卒業生を招いた企業研究会 ▶ 面接・グループ面接対策 ▶ 公務員対策講座
- ▶ 就職活動オープニング各種セミナー ▶ エントリーシート&SPI対策
- ▶ Uターン対策 ▶ 卒業生対象の就職支援 ▶ 留学生の就職支援 など



詳しくは、
こちらのQRコードを ▶
ご確認ください。



学修成果を「可視化」するTCU FORCE

「TCU FORCE」は、学生が取得した単位や資格、留学、課外活動の実績などを記録し、身につけた力を「可視化」するシステムです。自分自身で改善を繰り返し、卒業後に役立つ課題解決能力も磨きます。



詳しくは、
こちらのQRコードを ▶
ご確認ください。



お役立ち!

キャリア支援センターをご活用ください



キャリア支援センターには、1万件を超える求人情報が集まっています。
企業情報をはじめ、学生の個々のニーズに応える充実した資料を提供しています。



例えば…

本学独自の
「就職サポートブック」を
提供

求人やインターンシップ検索、
個人面談予約などが可能な
「都市大キャリアNavi」を
提供

企業パンフレットや求人票、
新聞などが閲覧できる
「資料コーナー」を
設置

キャリア支援センターからのメッセージ



アフターコロナの時期を迎え、人材が不足している業界も多く、求人倍率調査でも企業の採用意欲は高まってきていることが示されています。そのような状況の中、学生を取り巻く雇用環境では、ジョブ型雇用の導入や、新卒採用から経験者採用へのシフトなど、変化も見られるようになっていきます。

本学の学生には、将来も含めた環境の変化に対応できるように、単に就職することだけを目指すのではなく、持続的に社会で求められる人材として活躍するため、将来に向けたキャリア形成を意識することの大切さや、能力開発のために大学での授業や研究、留学や質の高いインターンシップ、また課外活動の経験、更に大学院で高いレベルでの学びを身に付けることなどが重要であると伝えています。

本学では、学生自身が自ら目標を設定し、経験した内容の記録をつけ、経験を振り返り、再び目標設定を行う、PDCAサイクルを回す「TCU FORCE」というオリジナルの仕組みや、自分の伸びた力を可視化するディプロマ・サプリメントシステムも導入しています。

特に大学1、2年生には、就職活動に向けたテクニックを身に付ける前に、主に授業などを通して「基礎力」を高め、「職業的態度」と言われる、自己信頼、変化志向・好奇心、当事者意識、達成志向を養う機会を提供しています。また上位の学年になるほど「専門力」を高め、その力を学外の方にも伝えられるようにサポートしています。今後も本学は「就職に強い都市大」のブランドを維持し続け、社会で求められる人材を送り出す使命を果たしていきたいと思っています。

高い就職内定率を実現

全学部就職内定率

※2022年度卒業生実績

97.7%

2022年度の
就職実績は、
こちらのQRコードを
ご確認ください。



キャリア支援センターのスタッフがきめ細かくサポートします

本学のキャリア支援センターは、キャリアカウンセラーの有資格者も多く、スキルの高いスタッフが在席しています。豊富な知識と経験からアドバイスを行い、就職・進路に関する相談はもちろん、履歴書・エントリーシートの効果的な書き方や添削、実践的な模擬面接などきめ細やかなサポートが特徴です。些細なことでもかまいません。これから就職活動を始める人、活動中の人、社会人への準備を行っている人、どんな状況でも迷ったり、悩んだりした時は、キャリア支援センターの相談窓口をご活用ください。



相談窓口

▶ 世田谷キャンパス
TEL: 03-6809-7572 (部署代表)
E-mail: sccareer@tcu.ac.jp

▶ 横浜キャンパス
TEL: 045-910-2525 (部署代表)
E-mail: yccareer@tcu.ac.jp

2023年度 入試結果

入試センター

過去最少の大学受験人口となった2023年度。入試の構造変化も進んでいて、いまや日本の大学進学者の半数以上は推薦制などの年内入試となり、一般選抜が成立しなくなっている大学も出現しています。3月に某女子大学が募集停止を発表したことは大きな話題となり、いよいよ本格的な大学淘汰時代を迎えたとも言われています。

そうした中で、本学の全入試の志願者数は前年比で105.8%。一般選抜では過去最高の15,382人を集め、全国的にも刮目される実績をあげることができました。

1. 入試の構造変化に影響を与える環境と政策

大学入試の構造を変化させた最も大きな理由は18歳人口の減少です。大学よりも先に影響を受けたのが短期大学で、1993年に595校あった短期大学は、約30年の間に309校にまで半減し、当時約25万人いた入学者は、現在は5万人以下にまで縮小しました。多くの短期大学が大学に改組したこともあって、この間の大学は534校から807校まで増加しています。以前は多様だった高等教育が、大学に一極化してきたとも言えます。

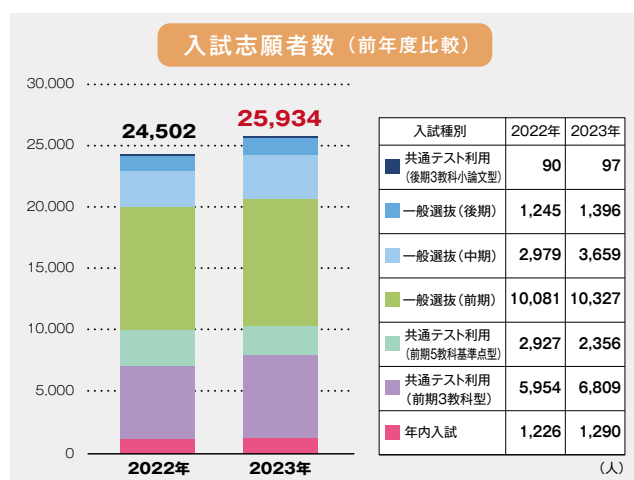
その後も18歳人口は減少の一途をたどり、短期大学では全入時代どころか定員割れ時代に入りました。そこからスライドするかのようこの大波は大学にも押し寄せてくるようになりました。各大学は特徴的な学部をつくり、入試制度を工夫するようになりましたが、こうした自律的な構造変化の過程で、入試に選抜機能がなくなってしまった大学もあらわれています。そうした状況も踏まえて政策化されたのが2017年の「高大接続改革」でした。高校と大学のコネクタである入試を、本来の進学適性確認の機能を維持しつつ、現実的な実態にも配慮した新しいスタイルに変更しているというものでした。数年の調整期間を経て、2021年1月にはセンター試験に変わって大学入学共通テストがスタート。AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜に、一般入試は一般選抜に名称変更され、それぞれの制度の趣旨や試験の内容も変更されました。大学入試は環境と政策の両面からのパラダイムシフトが進んでいます。

2. 年内入試の拡大とバランス

総合型選抜や学校推薦型選抜など、12月以前に合格が決まる入試を「年内入試」と称します。かつての大学入試では、年内入試は特別で小規模なものでしたが、現在の私立大学では入学者の約6割を占めるようになりました。この背景には、いち早く有利な方法で進路を決定したいという受験生の安全志向もさることながら、いち早く入学者を確保したい大学側の思惑もあるでしょう。大学の中には、1月以降の一般選抜で志願者が集まらないというネガティブな理由から、年内入試の依存率(入学者比率)を拡大させているケースも増えています。しかしながら、年内入試が過剰に増えすぎると一般選抜が成立しなくなるスパイラルに陥ることは容易に想像できます。入試施策には長期的視野を持ったバランスの見極めも重要であることは言うまでもありません。

本学の年内入試による入学者比率は、本年度結果として38.9%。現在の

私大一般傾向に比べるとまだまだ低く抑えられている状況です。本学の本年度の一般選抜志願者数15,382人は過去最高の実績となりましたが、この背景には、本学が一般選抜に軸を置いている大学グループとして認知されていることも理由のひとつであると考えます。河合塾が全国の私立大学531校を集計した一般選抜志願者数の前年度比は95.3%。具体的な数値としても入試規模縮小のトレンドが明白な中で、本学は前年度比107.5%という状況で、共通テスト利用入試でも103.2%という実績をあげることができました。当然のことながら年内入試も105.2%と拡大しており、全ての入試制度を合計した志願者数は25,934人。前年比で105.8%という結果になりました。



3. 探究学習プログラム「オープンミッション」の新設

年内入試による入学者は、学力競争を中心とした一般選抜による入学者に比して学力に不安があると言われる。しかしながら、年内入試の志願者は、希望する大学の学びを深く研究し、入学を熱願しているケースがほとんどであり、大学の広報活動の成果と言える面もあります。また、入試分析と不断の改革を進めてきた本学では、入試制度の違いによる入学後の学修評価に大きな差はありません。こうした入試特性も分析したうえで、昨年度から新設したのが「オープンミッション」という探究学習プログラムでした。オープンキャンパスでは伝えきれない情報とアカデミックな実体験をメニュー化したもので、学科ごとに設定した課題を探究し、大学教員と並走しながら発表という成果に結び付けていきます。約200名の参加者は、6月に中間発表とワークショップを行い、その後本学図書館を自由に利用し、8月に最終発表を行いました。国語や数学と違って“正解”がない学びのスタイルを体験し、多くがその経験と成果を年内入試の志望動機に掲げて受験に結び付けました。

また、「オープンミッション」は、高校の先生方からも注目のプログラムとなりました。高大接続改革によって学習指導要領が改訂され、国語・数学といった並びに「総合的な探究の時間」という教科も設定された中で、大学のリソースが活用できる有意義な機会になったのです。このプログラムが年内入試の志願者増に寄与したのは明らかですが、一般選抜の志願者が増加したことについても、本学への理解と共感が拡大したからだと考えます。

OPEN MISSION

【探究学習イベント】 プログラムの内容／スケジュール



4 - 6月

個人ワーク

WEB

【1】事前課題

ウェブサイトに公開されたミッション動画を見て、「参加理由書・課題計画書(指定用紙)」を締め切り日までに作成し、申し込む。その後、テーマ毎に【2】探究ワークまでの指示があります。



6月下旬

レクチャー

対面

【2】探究ワーク

【1】で取り組んだミッション(宿題)について、教員もしくは研究室の学生から課題に関するレクチャー等を受け、内容を掘り下げる。



7月

個人ワーク

WEB

グループワーク

対面

【3】自由探究

【2】探究ワークを受けて、8月上旬に行われる【4】成果発表に向けて、「個人ワーク」「グループワーク」を実施。本学図書館利用や教員・学生からのアドバイスを受けることも可能。



8月上旬

発表

対面

【4】成果発表

【1】～【3】で取り組んだ成果を発表。教員から評価コメントと修了証明書を発行。修了証明書は総合型選抜で提出資料として利用できる。



オープンミッション 課題一覧

詳しくは、こちらのQRコードをご確認ください。



2023年度

No.	学部	課題
1	● 理工学部 機械工学科	EV車両に搭載されているリチウムイオン電池の機械設計を考察
2	機械システム工学科	ジャイロセンサーの原理と応用を、実験を通して探究する
3	電気電子通信工学科	ドローンでイノベーションを起こそう!
4	医用工学科	自分自身の筋肉から発生する電気信号を探る
5	応用化学科	次世代蓄電・発電デバイスを支える導電性高分子材料を探る
6	原子力安全工学科	原子力施設の耐震設計を考える
7	自然科学科	地球外に生命のいる可能性のある天体を探す
8	● 建築都市デザイン学部 建築学科	空間と環境を創造する
9	都市工学科	強化化する自然災害に立ち向かうには
10	● 情報工学部 情報科学科	自律移動ロボットなどにおける制御メカニズムを探究する
11	知能情報工学科	未来のコンピューティングでサイバーセキュリティの問題を解決する
12	● 環境学部 環境創生学科	自然と共生した住環境の持続可能性を読み解く
13	環境経営システム学科	移動と交通をテーマに地域課題の解決方法をSDGsで探究する
14	● メディア情報学部 社会メディア学科	【高校生デザインエージコンテスト(ピクトグラム部門)】
15	情報システム学科	【高校生デザインエージコンテスト(プログラミング部門)】
16	● デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科	よりよい社会システムの実現。未来をデザインする
17	● 都市生活学部 都市生活学科	未来のまちを創造する
18	● 人間科学部 人間科学科	子どもについて考える

2022年度

No.	学部	課題
1	● 理工学部	強い梁を作ろう!
2	磁気軸受の模型を製作してみよう!(磁気軸受による磁気浮上)	
3	ドローンでイノベーションを起こそう!	
4	パルスオキシメーターによる循環系検査と装置の仕組み	
5	次世代蓄電・発電デバイスのための高分子材料	
6	自然放射線のゆらぎを探究してみよう	
7	地球外に生命がいる惑星を探す	
8	● 建築都市デザイン学部 自然の光を描く	
9	世の中の交通問題	
10	● 情報工学部 -	
11	● 環境学部 -	
12	自然とひとが調和するまちづくり	
13	未利用資源の活用/高齢化社会とDX	
14	● メディア情報学部 高校生デザインエージコンテスト(ピクトグラム部門)	
15	高校生デザインエージコンテスト(プログラミング部門)	
16	● デザイン・データ科学部 世界に向けて日本の商品やサービスのビジネス展開を考える	
17	● 都市生活学部 まちの「ならでは」を探究しよう	
18	災害に強いまちづくり	
19	● 人間科学部 子どもについて考えてみよう!	

4. 本学への社会的期待

今回の入試結果で特徴的だったのは、理工学部の「原子力安全工学科」の志願者数が前年比で約160%と、大きく増加したことでした。日本の大学で原子力を冠した学科を持つのはわずか2校。東日本大震災後には人気低迷した時期もありましたが、エネルギー問題等の社会的重要課題に、正面から取り組める専門性の高い学科として、志の高い受験生が集まるようになりました。

また、「デザイン・データ科学部」は、Society5.0時代に向けてデータサイエンスという学びが注目される中で新設した学部です。入学定員100名に対して全入試合計で1,000名を超える志願がありました。文理融合の科目

体系は本学が得意とするところであり、この学科が必須とする海外留学は、本学が2015年度から展開してきた東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)の大型実績が土台となっています。

文部科学省や教育未来創造会議から発信される最新の政策では、グローバル人材・デジタル人材・グリーン人材の充実、理工系の拡大、文理の壁を超えた知識と能力、といったキーワードが並びます。「工学を源流とする理工系総合大学」である東京都市大学には、これらに対する柔軟な対応力や実績があり、政策への呼応という面のみならず、社会的な期待が高まっていると考えています。

表1 2023年度 入学試験等志願者一覧 (2023年4月2日現在)

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
理工学部	総合型選抜(2段階選抜制)	95	(28)	107	(34)	-12	(-6)	88.8	(82.4)
	総合型選抜(1段階選抜制) 学際研究入試(理工系)、原子力人材入試	151	(39)	55	(9)	96	(30)	274.5	(433.3)
	社会人特別入試	1	(0)	0	(0)	1	(0)	—	(—)
	帰国生徒特別入試	0	(0)	6	(2)	-6	(-2)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	25	(3)	26	(6)	-1	(-3)	96.2	(50.0)
	外国人留学生特別入試	27	(3)	33	(3)	-6	(0)	81.8	(100.0)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	3,129	(515)	2,615	(353)	514	(162)	119.7	(145.9)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	958	(233)	1,173	(234)	-215	(-1)	81.7	(99.6)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	33	(10)	32	(5)	1	(5)	103.1	(200.0)
	一般選抜(前期理工系探究型)※自然科学科を除く	342	(66)	—	(—)	342	(66)	—	(—)
	一般選抜(前期)	4,255	(601)	4,282	(561)	-27	(40)	99.4	(107.1)
	一般選抜(中期)	1,545	(204)	1,270	(136)	275	(68)	121.7	(150.0)
	一般選抜(後期)	553	(81)	585	(68)	-32	(13)	94.5	(119.1)

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
建築都市デザイン学部	総合型選抜(2段階選抜制)	68	(29)	76	(35)	-8	(-6)	89.5	(82.9)
	社会人特別入試	0	(0)	1	(0)	-1	(0)	0.0	(—)
	帰国生徒特別入試	5	(4)	2	(1)	3	(3)	250.0	(400.0)
	学校推薦型選抜(公募制)	23	(9)	37	(17)	-14	(-8)	62.2	(52.9)
	外国人留学生特別入試	7	(3)	8	(1)	-1	(2)	87.5	(300.0)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	1,065	(307)	999	(250)	66	(57)	106.6	(122.8)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	386	(135)	602	(183)	-216	(-48)	64.1	(73.8)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	16	(3)	13	(4)	3	(-1)	123.1	(75.0)
	一般選抜(前期)	1,693	(399)	1,710	(408)	-17	(-9)	99.0	(97.8)
	一般選抜(中期)	554	(143)	434	(113)	120	(30)	127.6	(126.5)
	一般選抜(後期)	247	(78)	167	(41)	80	(37)	147.9	(190.2)

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
情報工学部	総合型選抜(2段階選抜制)	33	(9)	27	(11)	6	(-2)	122.2	(81.8)
	総合型選抜(1段階選抜制)創作ソフトウェア入試	13	(3)	14	(3)	-1	(0)	92.9	(100.0)
	帰国生徒特別入試	4	(0)	4	(1)	0	(-1)	100.0	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	8	(3)	14	(5)	-6	(-2)	57.1	(60.0)
	外国人留学生特別入試	9	(4)	11	(3)	-2	(1)	81.8	(133.3)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	958	(160)	1,080	(132)	-122	(28)	88.7	(121.2)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	433	(98)	599	(119)	-166	(-21)	72.3	(82.4)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	22	(7)	11	(0)	11	(7)	200.0	(—)
	一般選抜(前期)	1,650	(176)	1,963	(229)	-313	(-53)	84.1	(76.9)
	一般選抜(中期)	470	(71)	459	(60)	11	(11)	102.4	(118.3)
一般選抜(後期)	235	(29)	205	(41)	30	(-12)	114.6	(70.7)	

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
環境学部	総合型選抜(2段階選抜制)	19	(7)	15	(5)	4	(2)	126.7	(140.0)
	帰国生徒特別入試	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	14	(5)	8	(5)	6	(0)	175.0	(100.0)
	外国人留学生特別入試	7	(3)	4	(2)	3	(1)	175.0	(150.0)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	404	(115)	437	(108)	-33	(7)	92.4	(106.5)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	150	(48)	184	(57)	-34	(-9)	81.5	(84.2)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	8	(0)	10	(2)	-2	(-2)	80.0	(—)
	一般選抜(前期)	573	(157)	707	(201)	-134	(-44)	81.0	(78.1)
	一般選抜(中期)	275	(51)	251	(69)	24	(-18)	109.6	(73.9)
一般選抜(後期)	95	(21)	62	(19)	33	(2)	153.2	(110.5)	

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
メディア情報学部	総合型選抜(2段階選抜制)	27	(15)	17	(9)	10	(6)	158.8	(166.7)
	帰国生徒特別入試	2	(2)	0	(0)	2	(2)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	19	(10)	11	(6)	8	(4)	172.7	(166.7)
	外国人留学生特別入試	4	(1)	3	(1)	1	(0)	133.3	(100.0)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	523	(138)	473	(120)	50	(18)	110.6	(115.0)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	172	(50)	239	(74)	-67	(-24)	72.0	(67.6)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	9	(2)	16	(4)	-7	(-2)	56.3	(50.0)
	一般選抜(前期)	769	(222)	683	(184)	86	(38)	112.6	(120.7)
	一般選抜(中期)	328	(94)	286	(81)	42	(13)	114.7	(116.0)
一般選抜(後期)	102	(28)	126	(43)	-24	(-15)	81.0	(65.1)	

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
デザイン・データ科学部	総合型選抜(2段階選抜制)	13	(5)	—	(—)	13	(5)	—	(—)
	総合型選抜(1段階選抜制)創作デザイン入試	20	(6)	—	(—)	20	(6)	—	(—)
	帰国生徒特別入試	0	(0)	—	(—)	0	(0)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	3	(1)	—	(—)	3	(1)	—	(—)
	外国人留学生特別入試	2	(1)	—	(—)	2	(1)	—	(—)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	287	(81)	—	(—)	287	(81)	—	(—)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	116	(38)	—	(—)	116	(38)	—	(—)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	6	(1)	—	(—)	6	(1)	—	(—)
	一般選抜(前期)	321	(84)	—	(—)	321	(84)	—	(—)
	一般選抜(中期)	181	(54)	—	(—)	181	(54)	—	(—)
	一般選抜(後期)	50	(19)	—	(—)	50	(19)	—	(—)

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
都市生活学部	総合型選抜(2段階選抜制)	59	(28)	55	(32)	4	(-4)	107.3	(87.5)
	帰国生徒特別入試	0	(0)	2	(1)	-2	(-1)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	27	(13)	36	(21)	-9	(-8)	75.0	(61.9)
	外国人留学生特別入試	2	(0)	5	(2)	-3	(-2)	40.0	(—)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	327	(144)	281	(101)	46	(43)	116.4	(142.6)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	108	(45)	105	(48)	3	(-3)	102.9	(93.8)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	3	(1)	7	(1)	-4	(0)	42.9	(100.0)
	一般選抜(前期)	612	(251)	602	(206)	10	(45)	101.7	(121.8)
	一般選抜(中期)	268	(93)	237	(86)	31	(7)	113.1	(108.1)
一般選抜(後期)	100	(34)	77	(24)	23	(10)	129.9	(141.7)	

学部	入試制度名	2023年度		2022年度		増 減		前年比	
		総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子[内数](人)	総数(人)	女子(人)	総数(%)	女子(%)
人間科学部	総合型選抜(1段階選抜制)人間科学探究総合入試※	79	(69)	64	(59)	15	(10)	123.4	(116.9)
	社会人特別入試	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—	(—)
	帰国生徒特別入試	2	(1)	0	(0)	2	(1)	—	(—)
	学校推薦型選抜(公募制)	5	(4)	6	(6)	-1	(-2)	83.3	(66.7)
	共通テスト利用入試<前期3教科型>	116	(56)	69	(37)	47	(19)	168.1	(151.4)
	共通テスト利用入試<前期5教科型>	33	(16)	25	(7)	8	(9)	132.0	(228.6)
	共通テスト利用入試<後期3教科小論文型>	0	(0)	1	(0)	-1	(0)	—	(—)
	一般選抜(前期)	112	(79)	134	(108)	-22	(-29)	83.6	(73.1)
	一般選抜(中期)	38	(20)	42	(29)	-4	(-9)	90.5	(69.0)
一般選抜(後期)	14	(2)	23	(14)	-9	(-12)	60.9	(14.3)	

※ 2023年度は、試験日I期とII期の合計

表2 2023年度 共通テスト利用入試<前期3教科型> 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員 (人) ※1	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※2
				総数 (人)	女子 (人)	前年比 (%)	総数 (人)	女子 (人)	総数 (人)	女子 (人)	B/A 志願倍率 (倍)	C/D 実質倍率 (倍)	
理工学部	機械工学科	2023	19	606	48	108.2	604	48	205	21	31.9	2.9	69.8
		2022	21	560	37		557	37	178	11	26.7	3.1	63.7
	機械システム工学科	2023	18	510	57	104.1	508	57	185	22	28.3	2.7	69.6
		2022	19	490	50		488	50	184	17	25.8	2.7	62.5
	電気電子通信工学科	2023	23	734	68	143.4	729	68	198	22	31.9	3.7	73.1
		2022	25	512	35		510	35	214	15	20.5	2.4	62.5
	医用工学科	2023	12	232	71	92.8	231	71	87	21	19.3	2.7	68.3
		2022	13	250	69		249	69	122	38	19.2	2.0	60.2
	応用化学科	2023	12	516	152	129.0	515	152	134	36	43.0	3.8	74.0
		2022	13	400	99		398	99	172	49	30.8	2.3	60.8
原子力安全工学科	2023	6	208	30	158.8	207	30	69	10	34.7	3.0	68.7	
	2022	7	131	13		130	13	64	9	18.7	2.0	56.3	
自然科学科	2023	12	323	89	118.8	321	89	120	35	26.9	2.7	69.1	
	2022	12	272	50		270	49	121	26	22.7	2.2	59.4	
理工学部 計	2023	102	3,129	515	119.7	3,115	515	998	167	30.7	3.1	—	
	2022	110	2,615	353		2,602	352	1,055	165	23.8	2.5	—	
建築都市デザイン学部	建築学科	2023	23	626	207	101.6	622	205	95	42	27.2	6.5	78.8
		2022	23	616	186		614	186	96	33	26.8	6.4	70.5
	都市工学科	2023	16	439	100	114.6	438	100	141	39	27.4	3.1	71.3
		2022	16	383	64		381	64	117	20	23.9	3.3	64.6
建築都市デザイン学部 計	2023	39	1,065	307	106.6	1,060	305	236	81	27.3	4.5	—	
	2022	39	999	250		995	250	213	53	25.6	4.7	—	
情報工学部	情報科学科	2023	18	624	100	98.6	620	100	93	18	34.7	6.7	80.2
		2022	18	633	87		632	87	44	4	35.2	14.4	76.9
	知能情報工学科	2023	13	334	60	74.7	332	60	55	17	25.7	6.0	78.6
		2022	13	447	45		447	45	39	7	34.4	11.5	75.5
情報工学部 計	2023	31	958	160	88.7	952	160	148	35	30.9	6.4	—	
	2022	31	1,080	132		1,079	132	83	11	34.8	13.0	—	
環境学部	環境創生学科	2023	12	204	57	84.6	195	55	77	22	17.0	2.5	69.3
		2022	12	241	70		235	69	55	21	20.1	4.3	65.3
	環境経営システム学科	2023	12	200	58	102.0	199	58	83	29	16.7	2.4	66.7
		2022	12	196	38		196	38	77	14	16.3	2.5	66.3
環境学部 計	2023	24	404	115	92.4	394	113	160	51	16.8	2.5	—	
	2022	24	437	108		431	107	132	35	18.2	3.3	—	
メディア情報学部	社会メディア学科	2023	12	213	71	129.1	212	71	62	29	17.8	3.4	72.9
		2022	12	165	56		164	56	32	12	13.8	5.1	73.3
	情報システム学科	2023	12	310	67	100.6	307	67	50	15	25.8	6.1	78.4
		2022	12	308	64		305	64	31	6	25.7	9.8	74.1
メディア情報学部 計	2023	24	523	138	110.6	519	138	112	44	21.8	4.6	—	
	2022	24	473	120		469	120	63	18	19.7	7.4	—	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科※3	2023	12	287	81	—	286	81	73	23	23.9	3.9	74.8
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
都市生活学部 都市生活学科	2023	23	327	144	116.4	325	143	86	40	14.2	3.8	72.1	
	2022	23	281	101		280	101	63	26	12.2	4.4	72.4	
人間科学部 人間科学科※4	2023	6	116	56	168.1	115	56	68	32	19.3	1.7	59.0	
	2022	6	69	37		69	37	34	18	11.5	2.0	63.8	
総計	2023	261	6,809	1,516	114.4	6,766	1,511	1,881	473	26.1	3.6	—	
	2022	257	5,954	1,101		5,925	1,099	1,643	326	23.2	3.6	—	

※1 募集人員は前期5教科型を含む
 ※2 各教科200点満点換算の合計3教科600点満点
 ※3 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設
 ※4 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

表3 2023年度 共通テスト利用入試<前期5教科型> 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員 (人) ※1	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※2
				総数 (人)	女子 (人)	前年比 (%)	総数 (人)	女子 (人)	総数 (人)	女子 (人)	B/A 志願倍率 (倍)	C/D 実質倍率 (倍)	
理工学部	機械工学科	2023	19	170	23	79.4	168	22	69	11	8.9	2.4	68.8
		2022	21	214	19		212	19	43	6	10.2	4.9	70.0
	機械システム工学科	2023	18	147	31	82.6	145	30	57	11	8.2	2.5	68.8
		2022	19	178	25		178	25	20	1	9.4	8.9	70.0
	電気電子通信工学科	2023	23	180	27	72.9	177	26	69	10	7.8	2.6	68.8
		2022	25	247	21		246	21	47	5	9.9	5.2	70.0
	医用工学科	2023	12	109	42	87.9	107	41	46	17	9.1	2.3	68.8
		2022	13	124	48		124	48	18	7	9.5	6.9	70.0
	応用化学科	2023	12	170	55	72.6	169	54	70	25	14.2	2.4	68.8
		2022	13	234	79		233	78	52	9	18.0	4.5	70.0
原子力安全工学科	2023	6	71	14	157.8	70	13	25	6	11.8	2.8	68.8	
	2022	7	45	6		45	6	5	0	6.4	9.0	70.0	
自然科学科	2023	12	111	41	84.7	109	40	44	17	9.3	2.5	68.8	
	2022	12	131	36		131	36	18	1	10.9	7.3	70.0	
理工学部 計	2023	102	958	233	81.7	945	226	380	97	9.4	2.5	—	
	2022	110	1,173	234		1,169	233	203	29	10.7	5.8	—	
建築都市デザイン学部	建築学科	2023	23	226	94	60.9	225	93	102	41	9.8	2.2	71.3
		2022	23	371	140		370	140	46	17	16.1	8.0	73.8
	都市工学科	2023	16	160	41	69.3	159	40	71	20	10.0	2.2	68.8
		2022	16	231	43		229	43	43	8	14.4	5.3	70.0
建築都市デザイン学部 計	2023	39	386	135	64.1	384	133	173	61	9.9	2.2	—	
	2022	39	602	183		599	183	89	25	15.4	6.7	—	
情報工学部	情報科学科	2023	18	282	59	74.0	279	58	105	22	15.7	2.7	72.5
		2022	18	381	78		381	78	52	6	21.2	7.3	73.8
	知能情報工学科	2023	13	151	39	69.3	149	38	55	17	11.6	2.7	72.5
		2022	13	218	41		218	41	24	5	16.8	9.1	73.8
情報工学部 計	2023	31	433	98	72.3	428	96	160	39	14.0	2.7	—	
	2022	31	599	119		599	119	76	11	19.3	7.9	—	
環境学部	環境創生学科	2023	12	91	31	75.2	89	29	35	9	7.6	2.5	68.8
		2022	12	121	43		118	42	16	6	10.1	7.4	70.0
	環境経営システム学科	2023	12	59	17	93.7	58	16	24	9	4.9	2.4	68.8
		2022	12	63	14		63	14	17	4	5.3	3.7	70.0
環境学部 計	2023	24	150	48	81.5	147	45	59	18	6.3	2.5	—	
	2022	24	184	57		181	56	33	10	7.7	5.5	—	
メディア情報学部	社会メディア学科	2023	12	71	20	92.2	69	19	30	9	5.9	2.3	68.8
		2022	12	77	28		77	28	18	6	6.4	4.3	70.0
	情報システム学科	2023	12	101	30	62.3	99	29	31	9	8.4	3.2	72.5
		2022	12	162	46		162	46	17	3	13.5	9.5	73.8
メディア情報学部 計	2023	24	172	50	72.0	168	48	61	18	7.2	2.8	—	
	2022	24	239	74		239	74	35	9	10.0	6.8	—	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科※3	2023	12	116	38	—	114	36	45	16	9.7	2.5	68.8
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
都市生活学部 都市生活学科	2023	23	108	45	102.9	106	43	36	15	4.7	2.9	70.0	
	2022	23	105	48		104	48	23	11	4.6	4.5	70.0	
人間科学部 人間科学科※4	2023	6	33	16	132.0	31	14	14	6	5.5	2.2	68.8	
	2022	6	25	7		25	7	4	0	4.2	6.3	70.0	
総計	2023	261	2,356	663	80.5	2,323	641	928	270	9.0	2.5	—	
	2022	257	2,927	722		2,916	720	463	95	11.4	6.3	—	

※1 募集人員は前期3教科型を含む

※2 各教科200点満点換算(理系重点は地理歴史・公民および国語のみ素点100点満点、文系重点は数学および理科のみ素点100点満点)の合計5教科800点満点

※3 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設

※4 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

表4 2023年度 共通テスト利用入試(後期3教科小論文型) 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員 (人) ※1	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率	
				総数 (人)	女子 (人)	前年比 (%)	総数 (人)	女子 (人)	総数 (人)	女子 (人)	B/A 志願倍率 (倍)	C/D 実質倍率 (倍)
理工学部	機械工学科	2023	4	5	1	125.0	3	1	0	0	1.3	—
		2022	4	4	1		4	1	1	1	1.0	4.0
	機械システム工学科	2023	4	7	1	77.8	6	1	1	0	1.8	6.0
		2022	4	9	0		8	0	4	0	2.3	2.0
	電気電子通信工学科	2023	4	4	1	50.0	2	1	1	0	1.0	2.0
		2022	4	8	0		7	0	1	0	2.0	7.0
	医用工学科	2023	4	7	3	233.3	5	3	1	0	1.8	5.0
		2022	4	3	2		3	2	2	2	0.8	1.5
	応用化学科	2023	4	4	3	80.0	3	3	2	2	1.0	1.5
		2022	4	5	1		5	1	2	1	1.3	2.5
原子力安全工学科	2023	4	4	0	—	4	0	1	0	1.0	4.0	
	2022	4	0	0		0	0	0	0	—	—	
自然科学科	2023	4	2	1	66.7	2	1	1	1	0.5	2.0	
	2022	4	3	1		3	1	1	1	0.8	3.0	
理工学部 計	2023	4	33	10	103.1	25	10	7	3	8.3	3.6	
	2022	4	32	5		30	5	11	5	8.0	2.7	
建築都市デザイン学部	建築学科	2023	2	11	3	122.2	8	3	1	0	5.5	8.0
		2022	2	9	2		9	2	1	0	4.5	9.0
	都市工学科	2023	2	5	0	125.0	4	0	2	0	2.5	2.0
		2022	2	4	2		4	2	1	0	2.0	4.0
建築都市デザイン学部 計	2023	2	16	3	123.1	12	3	3	0	8.0	4.0	
	2022	2	13	4		13	4	2	0	6.5	6.5	
情報工学部	情報科学科	2023	2	13	6	260.0	12	5	2	0	6.5	6.0
		2022	2	5	0		3	0	2	0	2.5	1.5
	知能情報工学科	2023	2	9	1	150.0	9	1	2	0	4.5	4.5
		2022	2	6	0		3	0	1	0	3.0	3.0
情報工学部 計	2023	2	22	7	200.0	21	6	4	0	11.0	5.3	
	2022	2	11	0		6	0	3	0	5.5	2.0	
環境学部	環境創生学科	2023	2	2	0	100.0	2	0	2	0	1.0	1.0
		2022	2	2	0		2	0	1	0	1.0	2.0
	環境経営システム学科	2023	2	6	0	75.0	4	0	2	0	3.0	2.0
		2022	2	8	2		7	1	4	1	4.0	1.8
環境学部 計	2023	2	8	0	80.0	6	0	4	0	4.0	1.5	
	2022	2	10	2		9	1	5	1	5.0	1.8	
メディア情報学部	社会メディア学科	2023	2	4	1	50.0	2	1	1	0	2.0	2.0
		2022	2	8	3		6	1	3	1	4.0	2.0
	情報システム学科	2023	2	5	1	62.5	4	1	1	0	2.5	4.0
		2022	2	8	1		6	1	1	0	4.0	6.0
メディア情報学部 計	2023	2	9	2	56.3	6	2	2	0	4.5	3.0	
	2022	2	16	4		12	2	4	1	8.0	3.0	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科※2	2023	1	6	1	—	6	1	1	1	6.0	6.0
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
都市生活学部	都市生活学科	2023	1	3	1	42.9	2	1	1	0	3.0	2.0
		2022	1	7	1		6	0	2	0	7.0	3.0
人間科学部	人間科学科※3	2023	1	0	0	—	0	0	0	0	—	—
		2022	1	1	0		1	0	0	0	1.0	—
総計		2023	15	97	24	107.8	78	23	22	4	6.5	3.5
		2022	14	90	16		77	12	27	7	6.4	2.9

※1 募集人員は学部の合計数値
 ※2 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設
 ※3 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

表5 2023年度 一般選抜(前期理工系探究型) 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員(人) ※1	B 志願者数		C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※2 最低点
				総数(人)	女子(人)	総数(人)	女子(人)	総数(人)	女子(人)	B/A 志願倍率(倍)	C/D 実質倍率(倍)	
理工学部	機械工学科	2023	20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
	機械システム工学科		20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
	電気電子通信工学科		20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
	医用工学科		20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
	応用化学科		20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
	原子力安全工学科		20	57	11	55	11	26	5	2.9	2.1	426.0
総計			20	342	66	330	66	156	30	17.1	2.1	—

※1 募集人員は学部の合計数値 ※2 各教科200点満点の合計400点と、本学出題の探究総合問題200点の合計600点満点

表6 2023年度 一般選抜(前期) 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員(人)	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※1 最低点	
				総数(人)	女子(人)	前年比(%)	総数(人)	女子(人)	総数(人)	女子(人)	B/A 志願倍率(倍)	C/D 実質倍率(倍)		
理工学部	機械工学科	2023	55	934	55	102.9	904	52	299	14	17.0	3.0	176.74	
		2022	55	908	44		887	43	272	16	16.5	3.3	183.60	
	機械システム工学科	2023	52	815	71	109.2	792	71	254	22	15.7	3.1	177.18	
		2022	52	746	58		726	58	227	20	14.3	3.2	179.50	
	電気電子通信工学科	2023	70	980	77	95.1	944	71	255	14	14.0	3.7	183.86	
		2022	70	1,031	63		988	63	265	23	14.7	3.7	185.54	
	医用工学科	2023	26	241	90	82.3	229	85	90	35	9.3	2.5	167.50	
		2022	26	293	85		282	82	88	34	11.3	3.2	176.94	
	応用化学科	2023	33	642	189	88.7	623	182	176	61	19.5	3.5	183.60	
		2022	33	724	205		701	197	213	62	21.9	3.3	180.06	
原子力安全工学科	2023	20	294	28	134.2	283	24	101	10	14.7	2.8	170.22		
	2022	20	219	24		211	23	71	9	11.0	3.0	180.46		
自然科学科	2023	25	349	91	96.7	340	90	113	31	14.0	3.0	175.82		
	2022	25	361	82		347	80	111	30	14.4	3.1	179.92		
理工学部計	2023	281	4,255	601	99.4	4,115	575	1,288	187	15.1	3.2	—		
	2022	281	4,282	561		4,142	546	1,247	194	15.2	3.3	—		
デザイン学部	建築学科	2023	51	1,110	306	100.1	1,074	291	165	56	21.8	6.5	200.24	
		2022	51	1,109	325		1,063	309	134	47	21.7	7.9	204.80	
	都市工学科	2023	48	583	93	97.0	566	92	185	30	12.1	3.1	177.68	
		2022	48	601	83		583	81	189	32	12.5	3.1	179.40	
建築都市デザイン学部計	2023	99	1,693	399	99.0	1,640	383	350	86	17.1	4.7	—		
	2022	99	1,710	408		1,646	390	323	79	17.3	5.1	—		
情報工学部	情報科学科	2023	45	1,100	110	92.4	1,043	105	167	14	24.4	6.2	198.94	
		2022	45	1,191	135		1,145	129	116	13	26.5	9.9	210.36	
	知能情報工学科	2023	37	550	66	71.2	534	63	100	17	14.9	5.3	196.70	
		2022	37	772	94		742	87	81	14	20.9	9.2	209.10	
情報工学部計	2023	82	1,650	176	84.1	1,577	168	267	31	20.1	5.9	—		
	2022	82	1,963	229		1,887	216	197	27	23.9	9.6	—		
環境学部	環境創生学科	2023	38	303	89	67.0	292	85	126	45	8.0	2.3	166.12	
		2022	38	452	144		435	137	131	53	11.9	3.3	176.70	
	環境経営システム学科	2023	38	270	68	105.9	264	67	113	35	7.1	2.3	162.88	
		2022	38	255	57		248	56	86	22	6.7	2.9	173.16	
環境学部計	2023	76	573	157	81.0	556	152	239	80	7.5	2.3	—		
	2022	76	707	201		683	193	217	75	9.3	3.1	—		
情報メディア学部	社会メディア学科	2023	41	281	103	130.7	270	102	85	34	6.9	3.2	172.04	
		2022	41	215	74		211	71	57	30	5.2	3.7	183.98	
	情報システム学科	2023	43	488	119	104.3	475	114	88	19	11.3	5.4	131.92	
		2022	43	468	110		442	107	72	20	10.9	6.1	133.38	
メディア情報学部計	2023	84	769	222	112.6	745	216	173	53	9.2	4.3	—		
	2022	84	683	184		653	178	129	50	8.1	5.1	—		
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科 ※2	2023	35	321	84	—	309	82	83	19	9.2	3.7	184.84	
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
都市生活学部	都市生活学科	2023	60	612	251	101.7	590	243	152	75	10.2	3.9	183.40	
		2022	60	602	206		580	196	127	51	10.0	4.6	190.18	
人間科学部	人間科学科 ※3	2023	27	112	79	83.6	108	76	61	42	4.1	1.8	99.56	
		2022	27	134	108		129	105	51	44	5.0	2.5	115.52	
総計			2023	744	9,985	1,969	99.0%	9,640	1,895	2,613	573	13.4	3.7	—
			2022	709	10,081	1,897		9,720	1,824	2,291	520	14.2	4.2	—

※1 各教科100点満点の合計300点満点(情報システム学科、児童学科は合計2教科200点満点)合格者得点は素点ではなく標準化した点数

※2 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設

※3 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

表7 2023年度 一般選抜(中期) 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員 (人)	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※1
				総数 (人)	女子 (人)	前年比 (%)	総数 (人)	女子 (人)	総数 (人)	女子 (人)	B/A 志願倍率 (倍)	C/D 実質倍率 (倍)	
理工学部	機械工学科	2023	15	354	18	144.5	313	16	69	4	23.6	4.5	179
		2022	15	245	9		201	6	60	1	16.3	3.4	190
	機械システム工学科	2023	13	311	27	112.3	279	24	80	9	23.9	3.5	178
		2022	13	277	18		232	15	74	3	21.3	3.1	191
	電気電子通信工学科	2023	20	299	26	103.5	255	23	43	3	15.0	5.9	200
		2022	20	289	13		245	12	35	1	14.5	7.0	210
	医用工学科	2023	7	116	31	118.4	101	24	26	9	16.6	3.9	184
		2022	7	98	27		84	24	33	10	14.0	2.5	175
	応用化学科	2023	10	171	54	125.7	149	45	26	5	17.1	5.7	206
		2022	10	136	34		105	26	27	8	13.6	3.9	201
原子力安全工学科	2023	4	170	17	168.3	155	17	51	8	42.5	3.0	172	
	2022	4	101	12		91	11	40	6	25.3	2.3	159	
自然科学科	2023	10	124	31	100.0	106	24	34	5	12.4	3.1	182	
	2022	10	124	23		106	20	40	6	12.4	2.7	180	
理工学部 計	2023	79	1,545	204	121.7	1,358	173	329	43	19.6	4.1	—	
	2022	79	1,270	136		1,064	114	309	35	16.1	3.4	—	
建築都市デザイン学部	建築学科	2023	14	331	94	123.5	285	82	40	12	23.6	7.1	219
		2022	14	268	80		232	69	42	15	19.1	5.5	217
	都市工学科	2023	12	223	49	134.3	197	42	46	12	18.6	4.3	195
		2022	12	166	33		145	27	47	11	13.8	3.1	189
建築都市デザイン学部 計	2023	26	554	143	127.6	482	124	86	24	21.3	5.6	—	
	2022	26	434	113		377	96	89	26	16.7	4.2	—	
情報工学部	情報科学科	2023	12	277	37	120.4	232	31	48	5	23.1	4.8	218
		2022	12	230	35		191	32	32	10	19.2	6.0	227
	知能情報工学科	2023	10	193	34	84.3	163	29	44	13	19.3	3.7	207
		2022	10	229	25		195	23	30	8	22.9	6.5	229
情報工学部 計	2023	22	470	71	102.4	395	60	92	18	21.4	4.3	—	
	2022	22	459	60		386	55	62	18	20.9	6.2	—	
環境学部	環境創生学科	2023	10	112	19	88.2	104	19	52	8	11.2	2.0	107
		2022	10	127	35		107	27	35	13	12.7	3.1	130
	環境経営システム学科	2023	10	163	32	131.5	149	30	53	11	16.3	2.8	117
		2022	10	124	34		106	28	39	14	12.4	2.7	120
環境学部 計	2023	20	275	51	109.6	253	49	105	19	13.8	2.4	—	
	2022	20	251	69		213	55	74	27	12.6	2.9	—	
メディア情報学部	社会メディア学科	2023	10	157	47	136.5	144	43	39	14	15.7	3.7	130
		2022	10	115	40		94	30	33	13	11.5	2.8	128
	情報システム学科	2023	10	171	47	100.0	153	42	24	4	17.1	6.4	148
		2022	10	171	41		147	37	20	8	17.1	7.4	137
メディア情報学部 計	2023	20	328	94	114.7	297	85	63	18	16.4	4.7	—	
	2022	20	286	81		241	67	53	21	14.3	4.5	—	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科※2	2023	10	181	54	—	166	52	49	18	18.1	3.4	133
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
都市生活学部 都市生活学科	2023	17	268	93	113.1	235	79	49	14	15.8	4.8	134	
	2022	17	237	86		205	69	64	30	13.9	3.2	131	
人間科学部 人間科学科※3	2023	3	38	20	90.5	26	12	22	12	12.7	1.2	82	
	2022	3	42	29		30	19	9	6	14.0	3.3	117	
総 計	2023	197	3,659	730	122.8	3,212	634	795	166	18.6	4.0	—	
	2022	187	2,979	574		2,516	475	660	163	15.9	3.8	—	

※1 理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部は各教科100点満点の合計3教科300点満点
 環境学部、メディア情報学部、デザイン・データ科学部、都市生活学部、人間科学部は各教科100点満点の合計2教科200点満点
 ※2 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設
 ※3 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

表8 2023年度 一般選抜(後期) 志願・合格状況

学部名	学科名	入試年度	A 募集人員 (人)	B 志願者数			C 受験者数		D 合格者数		E 倍率		F 合格者得点 ※1
				総数 (人)	女子 (人)	前年比 (%)	総数 (人)	女子 (人)	総数 (人)	女子 (人)	B/A 志願倍率 (倍)	C/D 実質倍率 (倍)	
理工学部	機械工学科	2023	5	158	14	126.4	138	12	10	0	31.6	13.8	170
		2022	5	125	9		111	6	28	2	25.0	4.0	135
	機械システム工学科	2023	4	84	12	70.0	76	10	6	1	21.0	12.7	165
		2022	4	120	11		101	7	8	0	30.0	12.6	161
	電気電子通信工学科	2023	5	105	10	82.0	90	9	7	1	21.0	12.9	175
		2022	7	128	11		115	7	12	1	18.3	9.6	158
	医用工学科	2023	2	43	10	110.3	36	9	6	2	21.5	6.0	158
		2022	2	39	13		34	11	5	3	19.5	6.8	142
	応用化学科	2023	3	55	17	91.7	45	16	4	0	18.3	11.3	180
		2022	3	60	10		47	6	6	1	20.0	7.8	155
原子力安全工学科	2023	2	76	8	126.7	64	8	6	0	38.0	10.7	165	
	2022	2	60	5		53	4	15	0	30.0	3.5	120	
自然科学科	2023	3	32	10	60.4	28	8	3	0	10.7	9.3	150	
	2022	3	53	9		47	8	3	0	17.7	15.7	150	
理工学部 計	2023	24	553	81	94.5	477	72	42	4	23.0	11.4	—	
	2022	26	585	68		508	49	77	7	22.5	6.6	—	
建築都市デザイン学部	建築学科	2023	4	160	56	135.6	151	55	7	0	40.0	21.6	180
		2022	4	118	33		103	28	25	6	29.5	4.1	145
	都市工学科	2023	4	87	22	177.6	81	22	8	1	21.8	10.1	171
		2022	4	49	8		41	6	13	2	12.3	3.2	139
建築都市デザイン学部 計	2023	8	247	78	147.9	232	77	15	1	30.9	15.5	—	
	2022	8	167	41		144	34	38	8	20.9	3.8	—	
情報工学部	情報科学科	2023	4	143	20	118.2	124	16	21	2	35.8	5.9	170
		2022	4	121	25		108	22	20	4	30.3	5.4	160
	知能情報工学科	2023	3	92	9	109.5	81	7	14	0	30.7	5.8	161
		2022	3	84	16		75	13	13	2	28.0	5.8	165
情報工学部 計	2023	7	235	29	114.6	205	23	35	2	33.6	5.9	—	
	2022	7	205	41		183	35	33	6	29.3	5.5	—	
環境学部	環境創生学科	2023	3	38	11	105.6	36	11	12	5	12.7	3.0	118
		2022	3	36	12		32	11	10	6	12.0	3.2	118
	環境経営システム学科	2023	3	57	10	219.2	52	10	20	3	19.0	2.6	113
		2022	3	26	7		26	7	13	4	8.7	2.0	114
環境学部 計	2023	6	95	21	153.2	88	21	32	8	15.8	2.8	—	
	2022	6	62	19		58	18	23	10	10.3	2.5	—	
メディア情報学部	社会メディア学科	2023	2	51	17	76.1	45	15	11	7	25.5	4.1	124
		2022	2	67	26		60	24	14	7	33.5	4.3	136
	情報システム学科	2023	4	51	11	86.4	40	9	7	3	12.8	5.7	142
		2022	4	59	17		48	14	5	4	14.8	9.6	152
メディア情報学部 計	2023	6	102	28	81.0	85	24	18	10	17.0	4.7	—	
	2022	6	126	43		108	38	19	11	21.0	5.7	—	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科※2	2023	2	50	19	—	44	17	6	4	25.0	7.3	142
		2022	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
都市生活学部	都市生活学科	2023	5	100	34	129.9	91	32	11	5	20.0	8.3	130
		2022	5	77	24		72	20	12	3	15.4	6.0	129
人間科学部	人間科学科※3	2023	2	14	2	60.9	12	2	8	1	7.0	1.5	81
		2022	2	23	14		21	13	5	4	11.5	4.2	116
総計		2023	60	1,396	292	112.1	1,234	268	167	35	23.3	7.4	—
		2022	60	1,245	250		1,094	207	207	49	20.8	5.3	—

※1 各教科100点満点の合計2教科200点満点
 ※2 2023年4月、デザイン・データ科学部を開設
 ※3 2023年4月、児童学科を人間科学科に名称変更

2022年度決算について

財務課

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書とは、事業活動における収入と支出の内容、およびその均衡状態を明らかにするものです。目的は異なりますが、企業会計という損益計算書に近い計算書となります。

事業活動収支計算書における教育活動収入計は予算比9900万円減の143億9200万円となりました。

学生数は予算比99名増の7,851人となり、収容定員を充足する学生数を継続して確保しております。そのため、授業料は予算比で上回りましたが、TAP(東京都大学オーストラリア留学プログラム)参加者数が見込みを下回り参加費収入は減少しました。

外部資金の状況では、経常費補助金が減少となりましたが、新たに「世界展開力強化事業」に採択されるなど、補助金全体ではほぼ予算どおりとなりました。コロナ禍の影響を受けていた受託研究料(付随事業収入)は回復傾向ではありますが、予算比では減少となりました。

教育活動支出計は予算比6億1400万円減の135億8700万円となりました。

コロナ禍の影響により中断していたTAPが再開できたことや世田谷キャンパス再整備事業に係る費用増など、前年度比では費用が大きく増加しましたが、予算比では光熱水費の増加があったもののTAP関連費用や世田谷キャンパス再整備事業に関する費用が見込みを下回りました。

この結果、教育活動収支差額は8億400万円、経常収支差額は予算比5億500万円増の9億600万円となりました。

特別収支差額は世田谷キャンパス再整備事業における取壊し建物の資産処分差額などにより2億4800万円の支出超過となりました。

主に固定資産取得相当額である基本金組入額は、世田谷キャンパス再整備事業などにより14億4700万円となり、組入後の当年度収支差額は予算比で13億3400万円改善したものの7億8900万円の支出超過となりました。

資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する収支すべての内容と支払資金のてん末を明らかにするために作成します。事業活動収支計算書と概ね同内容となる科目は説明を省略します。

収入の部合計は、162億1100万円となり予算比3億3500万円の減少となりました。世田谷キャンパス再整備費用に充当するため施設引当特定資産の取崩しを予算比5億2000万円少ない16億円行いました。

支出の部合計は、160億6900万円となり予算比で2億7200万円の減少となりました。世田谷キャンパスにおける新10号館の竣工など、2022年度分の再整備事業費は34億4300万円となりました。

以上の結果、2022年度の資金収支差額は、予算比6300万円減の1億4100万円となりました。

事業活動収支計算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:円)

科目	決算	予算	差異
教育活動収支			
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	11,215,554,880	11,275,730,000	△ 60,175,120
手数料	534,634,699	464,931,000	69,703,699
寄付金	114,913,286	112,799,000	2,114,286
経常費等補助金	1,533,939,255	1,534,296,000	△ 356,745
国庫補助金	1,502,410,318	1,533,740,000	△ 31,329,682
地方公共団体補助金	31,528,937	556,000	30,972,937
学術研究振興資金	0	0	0
付随事業収入	679,321,039	819,225,000	△ 139,903,961
雑収入	314,431,098	284,891,000	29,540,098
教育活動収入計	14,392,794,257	14,491,872,000	△ 99,077,743
事業活動支出の部			
人件費	5,767,978,135	5,856,497,000	△ 88,518,865
教育研究経費	6,941,452,821	7,552,718,000	△ 611,265,179
管理経費	878,470,541	793,052,000	85,418,541
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	13,587,901,497	14,202,267,000	△ 614,365,503
教育活動収支差額	804,892,760	289,605,000	515,287,760
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	110,296,364	119,751,000	△ 9,454,636
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	110,296,364	119,751,000	△ 9,454,636
事業活動支出の部			
借入金等利息	8,832,975	8,834,000	△ 1,025
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	8,832,975	8,834,000	△ 1,025
教育活動外収支差額	101,463,389	110,917,000	△ 9,453,611
経常収支差額	906,356,149	400,522,000	505,834,149
特別収支			
事業活動収入の部			
資産売却差額	800,000	0	800,000
その他の特別収入	69,846,153	0	69,846,153
施設設備補助金	0	0	0
特別収入計	70,646,153	0	70,646,153
事業活動支出の部			
資産処分差額	318,899,231	239,257,000	79,642,231
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	318,899,231	239,257,000	79,642,231
特別収支差額	△ 248,253,078	△ 239,257,000	△ 8,996,078
予備費	—	50,000,000	△ 50,000,000
基本金組入前当年度収支差額	658,103,071	111,265,000	546,838,071
基本金組入額合計	△ 1,447,922,516	△ 2,235,269,000	787,346,484
当年度収支差額	△ 789,819,445	△ 2,124,004,000	1,334,184,555
(参考)			
事業活動収入計	14,573,736,774	14,611,623,000	△ 37,886,226
事業活動支出計	13,915,633,703	14,500,358,000	△ 584,724,297

■資金収支計算書（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

（単位：円）

科目		決算	予算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,215,554,880	11,275,730,000	△ 60,175,120
	手数料収入	534,634,699	464,931,000	69,703,699
	寄付金収入	115,551,241	112,799,000	2,752,241
	補助金収入	1,533,939,255	1,534,296,000	△ 356,745
	国庫補助金収入	1,502,410,318	1,533,740,000	△ 31,329,682
	地方公共団体補助金収入	31,528,937	556,000	30,972,937
	学術研究振興資金収入	0	0	0
	国際教育協会援助金収入	0	0	0
	資産売却収入	813,860	0	813,860
	付随事業-収益事業収入	679,321,039	819,225,000	△ 139,903,961
	受取利息-配当金収入	110,296,364	119,751,000	△ 9,454,636
	雑収入	314,237,129	284,891,000	29,346,129
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,698,623,114	2,594,478,000	104,145,114
	その他の収入	2,322,924,004	2,403,302,000	△ 80,377,996
	資金収入調整勘定	△ 3,314,287,802	△ 3,061,959,000	△ 252,328,802
収入の部合計	16,211,607,783	16,547,444,000	△ 335,836,217	
支出の部	人件費支出	5,809,872,438	5,856,926,000	△ 47,053,562
	教育研究経費支出	5,553,258,388	6,137,848,000	△ 584,589,612
	管理経費支出	775,282,074	696,987,000	78,295,074
	借入金等利息支出	8,832,975	8,834,000	△ 1,025
	借入金等返済支出	199,990,000	199,991,000	△ 1,000
	施設関係支出	2,690,282,719	2,745,602,000	△ 55,319,281
	設備関係支出	644,056,157	645,676,000	△ 1,619,843
	資産運用支出	223,000,000	0	223,000,000
	その他の支出	706,915,996	76,000,000	630,915,996
	予備費	—	50,000,000	△ 50,000,000
	資金支出調整勘定	△ 541,731,283	△ 76,000,000	△ 465,731,283
	支出の部合計	16,069,759,464	16,341,864,000	△ 272,104,536
	当年度資金収支差額	141,848,319	205,580,000	△ 63,731,681

■活動区分資金収支計算書（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

（単位：円）

科目		決算	予算	差異	
教育活動	収入	学生生徒等納付金収入	11,215,554,880	11,275,730,000	△ 60,175,120
		手数料収入	534,634,699	464,931,000	69,703,699
		特別寄付金収入	113,144,241	112,141,000	1,003,241
		一般寄付金収入	1,407,000	658,000	749,000
		経常費等補助金収入	1,533,939,255	1,534,296,000	△ 356,745
		付随事業収入	679,321,039	819,225,000	△ 139,903,961
		雑収入	314,237,129	284,891,000	29,346,129
		教育活動資金収入計	14,392,238,243	14,491,872,000	△ 99,633,757
	支出	人件費支出	5,809,872,438	5,856,926,000	△ 47,053,562
		教育研究経費支出	5,553,258,388	6,137,848,000	△ 584,589,612
		管理経費支出	775,282,074	696,987,000	78,295,074
		教育活動資金支出計	12,138,412,900	12,691,761,000	△ 553,348,100
		差引	2,253,825,343	1,800,111,000	453,714,343
調整勘定等	△ 278,446,306	△ 184,179,000	△ 94,267,306		
教育活動資金収支差額	1,975,379,037	1,615,932,000	359,447,037		
施設整備等活動	収入	施設設備寄付金収入	1,000,000	0	1,000,000
		施設設備補助金収入	0	0	0
		施設設備売却収入	813,860	0	813,860
		その他	1,600,000,000	2,120,000,000	△ 520,000,000
		施設整備等活動資金収入計	1,601,813,860	2,120,000,000	△ 518,186,140
	支出	施設関係支出	2,690,282,719	2,745,602,000	△ 55,319,281
		設備関係支出	644,056,157	645,676,000	△ 1,619,843
		その他	223,000,000	0	223,000,000
		施設整備等活動資金支出計	3,557,338,876	3,391,278,000	166,060,876
		差引	△ 1,955,525,016	△ 1,271,278,000	△ 684,247,016
調整勘定等	26,471,973	0	26,471,973		
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,929,053,043	△ 1,271,278,000	△ 657,775,043		
小計（教育活動+施設整備等）	46,325,994	344,654,000	△ 298,328,006		
その他の活動	収入	借入金等収入	0	0	0
		受取利息-配当金収入	110,296,364	119,751,000	△ 9,454,636
		収益事業収入	0	0	0
		その他	297,878,892	0	297,878,892
		その他の活動資金収入計	408,175,256	119,751,000	288,424,256
	支出	借入金等返済支出	199,990,000	199,991,000	△ 1,000
		その他	112,662,931	8,834,000	103,828,931
		その他の活動資金支出計	312,652,931	208,825,000	103,827,931
		差引	95,522,325	△ 89,074,000	184,596,325
		調整勘定等	0	0	0
その他の活動資金収支差額	95,522,325	△ 89,074,000	184,596,325		
予備費	—	50,000,000	△ 50,000,000		
支払資金の増減額（小計+その他の活動）	141,848,319	205,580,000	△ 63,731,681		

2023年度予算について

財務課

事業活動収支予算書

教育活動収入計は、前年度予算比1億7100万円増の146億6300万円を見込んでおります。学生数は7,944人を見込み、3年目となる学費改定効果や新たに獲得した補助金などにより、収入面では安定的な増収を見込んでおります。

教育活動支出計は、前年度予算比2億4000万円減の139億6200万円を見込んでおります。TAPをはじめとした国際化事業の促進や世田谷キャンパス再整備事業に引き続き重点投資を行います。また、横浜キャンパスの新校舎建設に関する設計費用を新たに計上しています。教育研究面では、「知識集約型社会を支える人材育成事業」や「次世代研究者挑戦的研究プロジェクト」の推進はもとより、新たに獲得した「世界展開力強化事業」によりカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材育成を推進します。

以上により教育活動収支差額は、資源高・円安などにより光熱水費の増加が見込まれるものの、前年度予算比で増加となる7億円を見込みました。このほか資金運用による利息や借入利息の支払を計上する教育活動外収支を合計した経常収支差額は8億200万円を見込んで

おります。

特別収支では世田谷キャンパス再整備に伴う解体建物の資産処分差額を引き続き計上しています。主に固定資産取得相当額となる基本金組み入れ後の当年度収支差額は前年度予算比で改善となる300万円の支出超過を見込んでおります。

資金収支予算書

資金収支予算書について、事業活動収支予算書と重複しない部分について説明します。

資金収入合計は、前年度予算比16億6500万円減の148億8200万円を見込んでおります。これは主に前年度予算では、世田谷キャンパス再整備のため施設拡充引当特定資産の取崩しを計上していたことによります。

資金支出合計は、140億9600万円を見込んでおります。このうち世田谷キャンパス再整備事業2023年度分は、13億600万円を見込んでおります。

この結果、当年度資金収支差額は7億8500万円を見込む予算となります。

事業活動収支予算書 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:円)

科目	本年度予算	前年度予算	増減
教育活動収支			
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	11,297,032,000	11,275,730,000	21,302,000
手数料	512,767,000	464,931,000	47,836,000
寄付金	113,799,000	112,799,000	1,000,000
経常費等補助金	1,592,468,000	1,534,296,000	58,172,000
国庫補助金	1,591,877,000	1,533,740,000	58,137,000
地方公共団体補助金	591,000	556,000	35,000
学術研究振興資金	0	0	0
付随事業収入	840,735,000	819,225,000	21,510,000
雑収入	306,200,000	284,891,000	21,309,000
教育活動収入計	14,663,001,000	14,491,872,000	171,129,000
事業活動支出の部			
人件費	6,038,773,000	5,856,497,000	182,276,000
教育研究経費	7,051,429,000	7,552,718,000	△ 501,289,000
管理経費	872,048,000	793,052,000	78,996,000
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	13,962,250,000	14,202,267,000	△ 240,017,000
教育活動収支差額	700,751,000	289,605,000	411,146,000
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	109,104,000	119,751,000	△ 10,647,000
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	109,104,000	119,751,000	△ 10,647,000
事業活動支出の部			
借入金等利息	7,612,000	8,834,000	△ 1,222,000
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	7,612,000	8,834,000	△ 1,222,000
教育活動外収支差額	101,492,000	110,917,000	△ 9,425,000
経常収支差額	802,243,000	400,522,000	401,721,000
特別収支			
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	0	0
施設設備補助金	0	0	0
特別収入計	0	0	0
事業活動支出の部			
資産処分差額	297,468,000	239,257,000	58,211,000
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	297,468,000	239,257,000	58,211,000
特別収支差額	△ 297,468,000	△ 239,257,000	△ 58,211,000
予備費	50,000,000	50,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額	454,775,000	111,265,000	343,510,000
基本金組入額合計	△ 458,760,000	△ 2,235,269,000	1,776,509,000
当年度収支差額	△ 3,985,000	△ 2,124,004,000	2,120,019,000
(参考)			
事業活動収入計	14,772,105,000	14,611,623,000	160,482,000
事業活動支出計	14,317,330,000	14,500,358,000	△ 183,028,000

■ 資金収支予算書 (2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:円)

科 目		本年度予算	前年度予算	増 減
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,297,032,000	11,275,730,000	21,302,000
	手数料収入	512,767,000	464,931,000	47,836,000
	寄付金収入	113,799,000	112,799,000	1,000,000
	補助金収入	1,592,468,000	1,534,296,000	58,172,000
	国庫補助金収入	1,591,877,000	1,533,740,000	58,137,000
	地方公共団体補助金収入	591,000	556,000	35,000
	学術研究振興資金収入	0	0	0
	国際教育協会援助金収入	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	840,735,000	819,225,000	21,510,000
	受取利息・配当金収入	109,104,000	119,751,000	△ 10,647,000
	雑収入	306,200,000	284,891,000	21,309,000
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,725,815,000	2,594,478,000	131,337,000
	その他の収入	294,612,000	2,403,302,000	△ 2,108,690,000
	資金収入調整勘定	△ 2,910,453,000	△ 3,061,959,000	151,506,000
収入の部合計	14,882,079,000	16,547,444,000	△ 1,665,365,000	
支出の部	人件費支出	6,023,383,000	5,856,926,000	166,457,000
	教育研究経費支出	5,400,663,000	6,137,848,000	△ 737,185,000
	管理経費支出	760,262,000	696,987,000	63,275,000
	借入金等利息支出	7,612,000	8,834,000	△ 1,222,000
	借入金等返済支出	155,551,000	199,991,000	△ 44,440,000
	施設関係支出	1,284,878,000	2,745,602,000	△ 1,460,724,000
	設備関係支出	414,331,000	645,676,000	△ 231,345,000
	資産運用支出	0	0	0
	その他の支出	76,000,000	76,000,000	0
	予備費	50,000,000	50,000,000	0
	資金支出調整勘定	△ 76,000,000	△ 76,000,000	0
支出の部合計	14,096,680,000	16,341,864,000	△ 2,245,184,000	
当年度資金収支差額	785,399,000	205,580,000	579,819,000	

PERSON

建築都市デザイン学部 建築学科 教授

てづかたかはる
手塚貴晴

1964年東京都生まれ。1987年武蔵工業大学工学部建築学科卒業。1989年武蔵工業大学工学研究科建築学修士修了。1990年ペンシルバニア大学工学研究科建築学修士修了。1990年から1994年までリチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドン勤務。1994年に日本で妻の手塚由比氏と手塚建築企画(1997年に手塚建築研究所に改称)を共同設立。1996年武蔵工業大学(現:東京都市大学)工学部建築学科専任講師。現在、東京都市大学建築都市デザイン学部 建築学科教授。受賞歴多数で、国内では日本建築学会賞、日本建築家協会賞、グッドデザイン金賞、子ども環境学会賞などを受けている。TEDトークの再生回数は2015年の世界7位を記録。



建築の新しい可能性を広げて活躍「僕の研究室は世界です」

手塚貴晴教授は、OECD(経済協力開発機構)とUNESCO(国際連合教育科学文化機関)から世界で最も優れた教育施設に選ばれた「ふじようちえん」や、ユニセフ東日本大震災復興プロジェクトから生まれた「あさひ幼稚園」をはじめ、洗練された建物を次々と設計し、世界中にその名が知られています。手塚先生は、武蔵工業大学付属高等学校(現:東京都市大学付属高等学校)から武蔵工業大学(現:東京都市大学)に進学し、卒業後も、1996年から現在まで本学で教員を務めており、「日本にいなかった時期もありますが、本学には、15歳から40年以上お世話になっていることになります。これほど長い人は、他にいないのではないのでしょうか」と縁の深さを強調します。

進学から留学、そして就職まで、すべて周囲の後押しから動き出した

先生が建築の勉強を本格的に始めたのは、大学で建築学科に進んだときです。「勉強を始めると、自分が建築のことをよく知っていることに驚きました。周りのみんなが苦労して勉強していることも、自分は既知していました。なぜだろうと思ったほどです」と、すでに建築について多くの知識があったと語ります。その背景には、先生の父親も建築家で、子どもの頃から模型や図面、建築雑誌などに囲まれて育ったという家庭環境がありました。「父に建築家になれと言われたことはありません。建築学科に進んだのは、高校の先生の推薦もあり自分で考えて決めました」と振り返ります。また、「大学時代にみんなが三次元パースの描き方で苦労しているのを見て、効率的な描き方を編み出しました。その方法は数年後に『手塚貴晴の手で描くパース』というタイトルで本になり、今も売られています」といったエピソードもありました。そうして進んだ建築の道で、大学時代には卒業設計賞や学術優秀賞を受賞しました。

先生は大学院を修了後、アメリカのペンシルバニア大学に留学します。「当時、新居千秋先生(建築家)に留学を勧められて『じゃあやってみます』と挑み、ペンシルバニア大学に行くことにしました」と、新居先生の後押しがきっかけになって世界への扉を開きました。「考えてみれば私は、高校も推薦で決め、そのまま大学へ進学し、留学も先生の勧めで決めていて、すべて誰かの後押しがありました」と話します。就職も「ペンシルバニア大学の先生に『この後どうするの。働いたほうがいいよ。推薦状書いてあげるから』と言われて、当時の建築事務所三大巨頭の一つであるリチャード・ロジャースの事務所に入りました」と、周囲の人が後押ししてくれたと語ります。その後、先生は帰国して福岡に事務所を構え、日本建築学会作品選奨やグッドデザイン賞の金賞などを受賞した副島病院(佐賀)を設計します。この仕事も、人の縁が重なって依頼を受けたそうです。そして、本学に赴任したきっかけも「日本に戻った頃、学部時代にお世話になった教授から『大学で教える気はないか?』と声をかけられました。本学

で教えるようになって、気付けば28年になります」とやはり後押しされた結果だと話します。

30歳までは、無我夢中で働いてみてほしい

先生は、「チャンスはみんな同じように来る。そこで飛びつか飛びつかないかだ」と学生によく話しているそうです。「私が学生たちに伝えたいのは『30歳までにプロになりなさい』ということです。今は無我夢中で働くことが推奨されない時代です。でも、30歳までは、とにかくがんばって“自分の職業”を見つけてプロになってほしいと思います。30歳までにプロになれば、60歳になっても80歳になっても、世の中に求められる人になれる」と、これからの社会を生き抜くための道を示します。先生自身も若い頃は無我夢中で働いた経験があります。「経験は後から買えません。そういうことができるチャンスは、30歳までしか回ってこないのです」と話します。様々な依頼や機会に積極的に取り組んできた先生は、「僕の研究室は世界です」と語り、現在も世界各地で活躍されています。

最後に、先生に建築の面白さを伺うと、「建築と言うと“カタチのデザイン”だと思われがちです。しかし、建築はより大きな可能性を持つ、パワフルな存在です。普通にしていたら繋がらないものが建築によって組み合わせたり、とても大きな動きになるのです」と建築が社会の課題解決のきっかけになることを語りました。そして今、力を入れていることの一つは、インドの奥地に建つ「ジャムセイ・ガツァ」とよばれる子どもたちの施設を建てかえるプロジェクトです。ここでは、厳しい環境に置かれながらも勉強に励む子どもたちの姿があります。建築の力が入ることによって、その施設と熱心な教育に多くの人が注目するようになり、子どもたちの夢も膨らみました。建築を通じて、新しい可能性を広げる先生の活躍には世界の注目が集まり続けます。



インドの奥地にある施設の建てかえ後のイメージスケッチ。手塚先生は建築設計に携わっており、建築の「デザイン」は多くの人に新しい教育の可能性を感じさせる。

世田谷キャンパス 4号館にあるグランドピアノ

「学生の頃、大学にあるピアノをよく弾いていたのですが、いつの間になくなっていました。だから僕がピアノを寄付しました。今も時々弾いています」



研究

Research In

機械学習を活用して

脳を計算論的に理解し

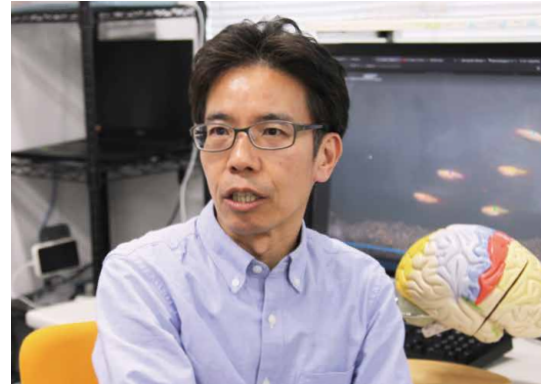
人の動きを数式で解き明かす

情報工学部 知能情報工学科

た な か ひ ろ か ず

田中宏和 教授

1995年京都大学理学部物理学系卒業。2000年同大学理学研究科物理学・宇宙物理学専攻博士修了。コロンビア大学、米国ソーク研究所、情報通信研究機構、日立製作所、北陸先端科学技術大学院大学を経て、2020年に東京都市大学情報工学部知能情報工学科、同大学院総合理工学研究所情報専攻システム情報工学領域教授に就任、現在に至る。著書に「計算論的神経科学 脳の運動制御・感覚処理機構の理論的理解へ」（森北出版）がある。日本神経回路学会優秀研究賞など受賞。



脳科学は、近年注目度の高い人工知能をはじめ、工学や心理学、社会学など幅広い学問に影響を与える分野横断型の学問です。その脳科学を専門とする田中宏和教授が研究しているのは、脳を計算論的に理解するという事です。まだ、未知のことが多い脳の動きについて、膨大な実験データをもとに法則性を見いだすことに、田中先生は挑戦しています。

「なんだかわからないもの」の中から規則性を探していく

「人の行動には、個人差や不確実性がありますが、条件を整えることで数式を使って解ける動きもあります」と先生は話します。ある条件下での目や腕の動きならば、その規則性を物理の法則のように捉えることで数式にできるのです。先生は、目の動きについて「実は目は、動いている間は見ていません。カメラを速く動かすと手振れしてしまうのと同じ原理です。脳は、見えない時間を短くするために、なるべく速く目を動かそうとします。一方であまりに速く動いても標的からずれてしまいます」と説明します。そして、「標的をはずさない速さや運動時間を最小にする動きを調べて数式を導き出せば、脳が指示する目や腕の動きを解き明かすことができるでしょう」と先生は話しました。

しかし、このような数式に辿り着くことは容易ではありません。「脳波や信号は、一言で言えば“なんだかわからないもの”です。そこで、その中から規則性があるのではないかと探るのが私たちの研究です。ただ、脳科学は天体の動きのようにはっきりと証明がしづらいので、“わかった”と言えるゴールが決めづらいのです。

目と腕の反応の数式

一定の条件下で、脳が指示する目と腕の動きを数式化したもの。この数式を解けば、脳がどのような指示を出しているかがわかる。

$$S_{MT}[t_f, \{u(t)\}] = t_f + \lambda \left[V_f - \frac{1}{t_p} \int_{t_f}^{t_f+t_p} dt \text{Var}[\theta(t)] \right] + \int_{t_f}^{t_f+t_p} dt \mu^T(t) [x_f - E[x(t)]]$$

評価関数（運動時間を最小にする）

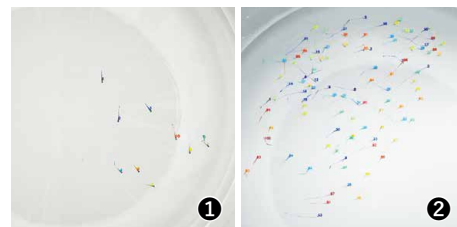
終点での分散

終点での平均

『脳と同じ動きを可能とする人工知能を発明できればわかったことになる』と言う人や『精神疾患などを治せるようになればわかったことになる』と言う人もいますが、それが脳の“理解”だとも限りません」と話します。

脳科学にとって必要不可欠なデータ採取の自動化に成功

「脳科学は基本、実験科学」と話す先生は、実験データを効率的に取得できる仕組みを、本学の重点推進研究で生み出しました。それは機械学習を利用したもので、例えば、水槽で泳ぐ複数の魚を動画撮影すると、画像認識で魚一匹一匹にラベルが付き、それぞれの魚の動きが記録されるという仕組みです。この実験では、魚が集団状態でのような行動をするか、という集団性について調べています。脳科学の研究では大量のデータを集めなければいけません。自動化が進むことで研究が大きく前進することが期待されます。先生は「集めたデータから法則を見つけることが、一番大変なのです」と笑いますが、これまでの課題を改善することで、研究が前進することが期待されます。



魚の軌跡

魚の数が少ないとき(①)は、バラバラの泳ぎをしていたが、魚の数が増える(②)と集団で同じ方向に泳ぐ性質が見られる。

イメージしにくい脳科学の研究について先生は「物理学の例ですが、ニュートン力学に必要なのはケプラーの法則で、ケプラーの法則にはティコ・ブラーエの観測データが必要でした。ブラーエは当時、世間から『そのデータはなんの役に立つのか』と言われていたと思います。しかし、それがないとニュートン力学はないわけです」と説明し、未来に可能性を持つ基礎的な研究をすることが大学の大切な役割だと話します。

紹介

t r o d u c t i o n

大量のデータを解析することで 様々な社会課題解決の 扉を開く



デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科

かわい たか ずみ

河合孝純 教授

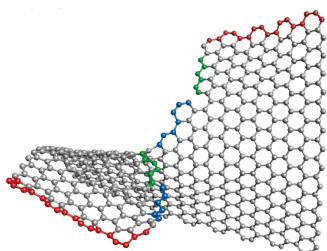
1995年東京理科大学理学部物理学卒業。1997年同大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了。同年独立行政法人日本学術振興会特別研究員DC1採用、2年で同大学院博士課程修了。1999年より日本電気株式会社(NEC)にポストドクとして採用され、一般財団法人ファインセラミクスセンターフロンティアカーボンテクノロジー研究本部に転出、2003年よりNEC基礎研究所に勤務。2020年より東京都市大学大学院総合理工学研究科情報専攻教授。2023年同デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科教授、教育開発機構 数理・データサイエンス教育センターセンター長。2000年に公益財団法人井上科学振興財団井上研究奨励賞受賞。

私たちの生活を支える社会インフラの多くは高度経済成長期に建設されており、現在、老朽化が深刻な問題となっています。効率的に保守・管理することがますます重要になる一方で、道路構造物(橋梁、トンネルなど)の保守・管理を担う技術者の技術継承も課題となっているのが現状です。そこで、データ分析を活用して、このような社会課題を解決するための研究を行っているのが河合孝純教授です。また、先生は2023年度より新設されたデザイン・データ科学部の教授として、データサイエンス教育にも携わっています。

テクノロジーで、優秀な技術者と同レベルの検査結果を

河合先生は、長年、日本電気株式会社(以下、NEC)の研究所で炭素系高機能材料の原子スケールでの化学反応性や構造安定性の理論研究を行ってきており、本学に着任後もグラフェン※等に関する研究を行っています。例えば、グラフェンを引き裂いたときの切り口の構造が電気的な性質に与える影響など、ミクロな構造と特性の関係を探っています。

このようにデータを分析して推測する先生の研究方法は、全く別の分野にも対象を広げています。その一つが、赤外線カメラなどの種々のセンサーを搭載した点検車で収集されたデータから異常を検知する研究です。「集めたデータを分析して、道路などで劣化している場所や壊れそうな場所を特定しようとしています。レーダーを使って路面下の状態を調査する企業とも共同研究をしています。様々なデータを組み合わせて分析することで、より詳細な状態の分析ができると考えています」と河合先生は研究について説明します。「グラフェンと道路は全く違う研究対象に思えますが、



※グラフェン：炭素原子が六角形の編み目のように結びついた、非常に薄いシート状の材料。

グラフェンの引き裂きによるエッジの形成
電池や半導体材料への応用が期待されるグラフェンを引き裂くシミュレーション。こうした原子材料の動的なシミュレーションを、河合先生は長く研究してきました。



赤外線カメラなどの種々のセンサーを搭載した点検車

この車両で走りながら道路のデータを収集する。収集したデータを、機械学習を用いて分析することで道路の状態を判断することができる。



どちらも大量のデータから有用な情報を抽出し、状態を明らかにしたり予測するという点で共通しています」と先生は話します。

さらに、先生の前職でもあるNECとも共同研究を行っています。「NECの代表的な分析方法であるインバリエント分析を使った研究も進めています。この分析では、多数のセンサーから大量のデータを収集して、異常発生の予兆を検知します」と語ります。「これらの研究で最終的に実現したいのは、保守・管理を担う技術者の経験や技量によらず高度で均質な状態判定ができ、分析結果の解釈から点検者のレベル向上も期待できる技術の開発です」と社会課題の解決を見据えています。

データがあればどんな分野にも関わられるデータサイエンス

先生は、データ分析の経験を活かして、近年注目されているデータサイエンスの全学的なリテラシー教育を他の担当教員と協力して立ち上げました。「データサイエンスの新しい知見を取り入れるため、カリキュラムや教材はゼロから作成し、一般にも公開することにしました」と立ち上げの苦勞を話します。一方で、「データサイエンスの面白いところは、興味のあるテーマを深掘りすることで様々な立場の人が課題解決に関わり、良いソリューションを構築できることです。卒業研究の学生の一人は、データを分析してサッカーの勝敗予測を研究しようとしています。そうした学生ならではの視点には影響を受けます」と指導が研究への刺激になっていると話します。先生の好奇心と大量のデータ、この組み合わせが新たな発想を生み出していきます。

図書館のご利用案内について

図書館は、ご家族もご利用いただけます。

※ご家族(一般の方)のご利用資格は、18才以上(高校生はご利用できません)となります。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「第5類」に移行したことに伴い、7月より一般の方のご利用を再開しました。

▶ご利用の前に、こちらのQRコードの内容を必ずご確認ください。



【世田谷キャンパス図書館】 8号館

吹き抜けの庭園を囲む閲覧席と
木製家具でデザインされた学習空間が特徴的です。
蔵書は約15万冊、和洋雑誌約1,100タイトルを提供しています。



【開館時間】	○月曜日～金曜日	08:50～22:00
	○土曜日	08:50～17:00
【試験期】	○土曜日	08:50～20:00
	○日曜日・祝日	10:00～18:00

※休講時は開館時間を短縮します。

【休館日】

○日曜日・国民の祝日・入学試験日 ○その他、学事等に伴う臨時休館を要する場合

※開館時間の変更・臨時休館日は、図書館のウェブサイトをご確認ください。

【横浜キャンパス図書館】 2号館

「環境」と「情報」分野を中心に、約13万冊の蔵書と
和洋雑誌約1,060タイトルを提供しています。
落ち着いた読書を楽しめる個人ブース席も完備しています。



【開館時間】	○月曜日～金曜日	08:50～22:00
	○土曜日	08:50～17:00
【試験期】	○土曜日	08:50～20:00
	○日曜日・祝日	10:00～18:00

図書館の詳しい概要や
開館時間の変更・臨時休館日は
こちらのQRコードをご確認ください。



《世田谷》



福島 加津也 教授
(建築都市デザイン学部 建築学科)

ex-dreams
もうひとつの
ミッドセンチュリー
アーキテクチャ

2023年3月
ガーデン出版/5,280円(税込)

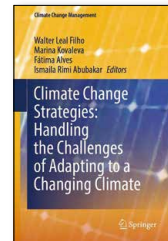
本学教員
新刊
著書紹介

馬場健司 教授
(環境学部 環境経営システム学科)

Climate Change
Strategies:
Handling
the Challenges
of Adapting to a
Changing Climate
(共著)

2023年6月
Springer/20,019円(税込)

《横浜》



ここで紹介された著作物は《 》内に表示されたキャンパスの図書館に所蔵しています。閲覧を希望される方は、各図書館で配架場所をお尋ねください。

Campus Spot on Cover

【世田谷キャンパス】五島記念館(3号館)・エントランス

1994年に完成した「3号館」は、五島育英会の創設者である五島慶太翁の功績を称え「五島記念館」と命名されました。1階には本学の歴史展示コーナーが設けられています。

建物の正面には、ギリシャのパルテノン神殿を連想させる柱が並び、ガラス張りのエントランスと上部に施されたステンドグラスから穏やかな光が差し込みます。楕円形の吹き抜けが特徴的な中庭のテラス席は、学生たちの憩いの場となっています。

